

科目名	文学の世界（人間学部）	担当教員	平岡 正実
英語科目名	The World of Literature	単位	2単位
開講形態	講義	配当年次	2年後期
選択区分	選択	ナンバリング	HS-1223
科目区分	人間学部学部共通科目 人間学関連科目		
求める学習成果（教育目標）	豊かな人間性と倫理観を身につけ、幅広い視野から物事をとらえ、的確な判断を下すことができる力を養います。		

(1)身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）	■自他の理解能力 □コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 □社会・職業理解能力 □役割把握・認識能力 □計画実行能力 □選択能力 □課題解決能力
(2)授業の内容	古今の郷土に関係する作家や文学作品、昔話おとぎ話等を取り上げ読解する。読むことで得た知識をもとに簡単な文学作品を創作する。
(3)授業の到達目標	古今の郷土に関係のある文学作品や作家の生き方に触れることで、それぞれの時代にふるさとに生きた人々の思想や願いに思いをはせるとともに、創作活動に必要な文章構成や表現の工夫などの基礎的な知識を身につけることができる。
(4)アクティブ・ラーニング	□課題解決型学習 ■討議(ディスカッション、ディベート、Moodle でのチャット・フォーラム、Teams、Zoom 等) ■グループワーク(Moodle でのチャット・フォーラム、Teams、Zoom 等) ■発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom 等) ■実習、フィールドワーク □実験、実技 □その他()
(5)授業の計画及び授業外の学習方法	第1 回： 授業概要の説明及び受講の心構え 事前学習： 今までの自分の読書生活を振り返り、この講義で学びたいことややってみたいことなどについて、簡単なスピーチができるようにしておくこと。(2 時間) 事後学習： 「ビブリオバトル」のルールについて、図書やインターネットで等で調べておくこと。(2 時間) 第2 回： 郷土(武生・今立)の文学概論（発表・ディスカッション） 事前学習： 郷土に関連のある作家や文学作品の中で興味のあるものについて調べ、ノートにまとめておくこと（2 時間） 事後学習： 越前市東部(味真野地区・今立地区)の文化遺産について調べ、ノートにまとめ第3 回授業で提出すること(2 時間) 第3 回： 郷土の文学①いわさきちひろと絵本（発表・ディスカッション） 事前学習： 「いわさきちひろ」について、図書館やインターネットで調べ、代表的な作品を読んでおくこと。(2 時間) 事後学習： 安曇野と東京のちひろ館やちひろの絵の技法について調べ、ノートにまとめ第4 回授業で提出すること。(2 時間) 第4 回： 郷土の文学②加古里子とかこさとし絵本館（発表・ディスカッション） 事前学習： 「かこさとし」について図書館やインターネットで調べ、代表的な作品を読んでおくこと。(2 時間) 事後学習： かこさとし公園やかこさとしの絵の技法について調べ、ノートにまとめ第5 回授業で提出すること。(2 時間) 第5 回： 郷土の文学③橘曙覧と独楽吟（発表・グループワーク） 事前学習： 「橘曙覧」について、図書館やインターネットで調べておくこと。(2 時間) 事後学習： 「平成独楽吟集」を読み、曙覧の句と比べて社会的背景や先人の物の見方・感じ方について感想をノートにまとめ第6 回授業で提出すること。(2 時間) 第6 回： 郷土の文学④「山川登美子・水上勉・高見順」（発表・ディスカッション） 事前学習： 「山川登美子・水上勉・高見順」のうち、興味のある文学者について調べ、ノートにまとめておくこと。(2 時間) 事後学習： 「山川登美子・水上勉・高見順」のうち、興味のある文学者の作品を読み、特徴や文学史上の位置づけについてノートにまとめ第7 回授業で提出すること。(2 時間) 第7 回： 郷土の文学のまとめ「郷土の文学新聞」制作 事前学習： 郷土の文学者のうち、興味のある文学者について資料を集め、「郷土の文学新聞」のレイアウトを作成しておくこと。(2 時間) 事後学習：「郷土の文学新聞」を完成させ第8 回授業で提出すること。(2 時間) 第8 回： 神話・昔話の世界①小学校1 年生の教科書教材（発表・ディスカッション） 事前学習： 日本の神話や昔話(古事記・宇治拾遺物語・御伽草子等)について調べ、ノートにまとめておくこと。(2 時間) 事後学習： 授業中に紹介された日本の説話集について、図書館で調べてまとめ第9 回授業で提出すること。(2 時間) 第9 回： 神話・昔話の世界②原典や絵本等を読む（発表・ディスカッション） 事前学習： 西洋の昔話(グリム・アンデルセン・ペロー等)について調べ、ノートにまとめておくこと。(2 時間) 事後学習： 授業中に紹介された西洋の昔話・おとぎ話について、図書館で調べてまとめ第10 回授業で提出すること。(2 時間) 第10 回： 韻文(詩・短歌・俳句)の世界（発表・ディスカッション） 事前学習： 俳句(文学史、季語)について調べ、ノートにまとめておくこと。(2 時間) 事後学習： 興味のある俳人、歌人、詩人の人物像や作品について調べ、ノートにまとめ第11 回授業で提出すること。(2 時間) 第11 回： 童話の創作法(発表・ディスカッション・グループワーク) 事前学習： 芥川龍之介について調べ、ノートにまとめ第12 回授業で提出すること。(2 時間) 事後学習： 芥川龍之介の作品（ 説話集） を一つ読み、400 字程度にまとめて第12 回授業で提出すること（2 時間）

	第 12 回： 童話の創作① (発表・ディスカッション) 事前学習： 日本の昔ばなしや西洋のおとぎ話をテーマにした絵本・児童向け作品集を読み、あらすじと感想をノートにまとめておくこと。(2 時間) 事後学習： 幼児教育における昔話やおとぎ話の意義について、意見をノートにまとめ第 13 回授業で提出すること。(2 時間) 第 13 回： 童話の創作② (発表・ディスカッション) 事前学習： 童話コンクール入賞作品を分析し、魅力をまとめておくこと。(2 時間) 事後指導： 図書館やインターネット等で日本の代表的な説話集にどのようなものがあるか調べ、ノートにまとめ第 14 回授業で提出すること (2 時間) 第 14 回： 童話の創作③ (発表・ディスカッション) 事前学習： 説話集をリストアップし、比較分析すること。(2 時間) 事後学習： 授業の課題(日本の説話集から作品を選び、現代の社会状況に合わせて書き直す)を完成させ第 15 回授業で提出すること。(2 時間) 第 15 回： 創作童話の合評会 (プレゼンテーション) 事前学習： 自分が取り上げた作品について、ワークシートにまとめておくこと。(2 時間) 事後学習： 本授業を受講して印象に残ったことや更に調べてみたいことなどをノートにまとめ提出すること。(2 時間)
(6)授業実施方法(面接授業・遠隔授業)	原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(7)成績評価方法	学期末レポート(50%)、授業内の課題(30%)、平常点(20%) (平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断する)
(8)成績評価基準	講義で学修した作家や作品について理解を深めたか。作品創作に必要な手順や方法など基礎的な知識を理解して、文章構成や表現に留意した作品が書けたか。
(9)課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 (具体的に記述：) 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☒ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 (具体的に記述：) 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☒ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 (具体的に記述：) 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 (具体的に記述：) 5) その他 (自由記述：)に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他 (具体的に記述：)
(10)実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)	・経歴 (元小・中学校教諭) ・実務経験と授業内容との関連性 (学校現場における教員経験を有する教員が、ふるさと教育の視点から福井県や越前市の文化や文学者について解説したり、青少年期における読書活動の意義・重要性について講義する。)
(11)テキスト・参考図書	テキストは、使用しません。参考図書は、その都度指示します。
(12)その他 (受講上の注意)	毎回、テーマに関する本を 1 冊以上読んでおく
(13)オフィスアワー	UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。
【大学処理欄】昨年度からの変更箇所	(1)□ (2)□ (3)□ (4)□ (5)□ (6)□ (7)□ (8)□ (9)□ (10)－ (11)□ (12)□ (13)－

科目名	情報処理演習 a	担当教員	竹村 順吾
英語科目名	Information Processing Practicum a	単位	2単位
開講形態	演習	配当年次	2年前期
選択区分	選択	ナンバリング	HS-2250
科目区分	人間学部学部共通科目 情報科目		
求める学習成果（教育目標）	大学生としての基礎的能力ならびに専門的・実務的な知識を習得し、探求的な意欲と協同的な態度を身につけます。		

(1)身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）	☐ 自他の理解能力 ☐ コミュニケーション能力 ☒ 情報収集・探索能力 ☒ 社会・職業理解能力 ☐ 役割把握・認識能力 ☐ 計画実行能力 ☐ 選択能力 ☐ 課題解決能力
(2)授業の内容	情報技術の基礎とその社会における利用について学び、情報技術を有効に活用するための知識と態度を習得する。
(3)授業の到達目標	一般企業などにおける情報システムの利用者側としての必要な知識技能を主に習得し、業務の情報化を推進できる幅広い活用能力の獲得を目指す。 本授業では、情報処理技術者試験の一つである「ITパスポート試験(iパス)」に合格できるレベルの知識と技能を獲得することを目標とする。 参考 IT パスポート試験シラバス https://www3.jitec.ipa.go.jp/JitesCbt/html/about/range.html
(4)アクティブ・ラーニング	☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他(具体的に記述：)
(5)授業の計画及び授業外の学習方法	第1回：概説、第1章 企業と法務(1) 事前学習：「試験の概要」「1-1-1」「1-1-2」を読み予習する(2時間) 事後学習：本日採り上げた範囲について復習、課題提出(2時間) 第2回：第1章 企業と法務(2) 事前学習：「1-1-3」を読み予習する(2時間) 事後学習：本日採り上げた範囲について復習、課題提出(2時間) 第3回：第1章 企業と法務(3) 事前学習：「1-2」を読み予習する(2時間) 事後学習：本日採り上げた範囲について復習、課題提出(2時間) 第4回：第2章 経営戦略 事前学習：「2-1」～「2-3」を読み予習する(2時間) 事後学習：本日採り上げた範囲について復習、課題提出(2時間) 第5回：第3章 システム戦略 事前学習：「3-1」～「3-2」を読み予習する(2時間) 事後学習：本日採り上げた範囲について復習、課題提出(2時間) 第6回：第4章 開発技術 事前学習：「4-1」～「4-2」を読み予習する(2時間) 事後学習：本日採り上げた範囲について復習、課題提出(2時間) 第7回：第5章 プロジェクトマネジメント、第6章 サービスマネジメント 事前学習：「5-1」～「6-2」を読み予習する(2時間) 事後学習：本日採り上げた範囲について復習、課題提出(2時間) 第8回：第7章 基礎理論(1) 事前学習：「7-1」を読み予習する(2時間) 事後学習：本日採り上げた範囲について復習、課題提出(2時間) 第9回：第7章 基礎理論(2) 事前学習：「7-2」を読み予習する(2時間) 事後学習：本日採り上げた範囲について復習、課題提出(2時間) 第10回：第8章 コンピュータシステム 事前学習：「8-1」～「8-4」を読み予習する(2時間) 事後学習：本日採り上げた範囲について復習、課題提出(2時間) 第11回：第9章 技術要素(1) 事前学習：「9-1」～「9-3」を読み予習する(2時間) 事後学習：本日採り上げた範囲について復習、課題提出(2時間) 第12回：第9章 技術要素(2) 事前学習：「9-4」を読み予習する(2時間) 事後学習：本日採り上げた範囲について復習、課題提出(2時間) 第13回：第9章 技術要素(3) 事前学習：「9-5-1」～「9-5-3-4」を読み予習する(2時間) 事後学習：本日採り上げた範囲について復習、課題提出(2時間) 第14回：第9章 技術要素(4) 事前学習：「9-5-3-5」～「9-5-3-6」を読み予習する(2時間) 事後学習：本日採り上げた範囲について復習、課題提出(2時間) 第15回：第10章 表計算、CBT試験対策 事前学習：「10-1」～「10-3」「CBT試験対策」を読み予習する(2時間)

	事後学習：本日採り上げた範囲について復習、課題提出 (2時間) 第16回：定期試験
(6)授業実施方法(面接授業・遠隔授業)	原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(7)成績評価方法	定期試験(80%) 演習課題(10%) 平常点(10%) (平常点は、授業への参加状況・受講態度等)
(8)成績評価基準	ITパスポート試験に合格できるレベルの知識と技能を獲得できたか。
(9)課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ■ 授業時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他 (具体的に記述：) 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ■ 授業時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他 (具体的に記述：) 3) 小レポートに対するフィードバックについて □ 授業時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他 (具体的に記述：) 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて □ 定期試験時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他 (具体的に記述：) 5) その他 (自由記述：)に対するフィードバックについて □ 授業時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他 (具体的に記述：)
(10)実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)	・経歴 (インターネット関連企業勤務) ・実務経験と授業内容との関連性 (IT関連企業でマーケティングや開発経験を有する教員が、社会における I T 技術の役割を実例豊富に紹介し、企業で求められる実践的リテラシーとスキルを解説する。)
(11)テキスト・参考図書	テキスト 『よくわかるマスター 令和6-7年度版ITパスポート試験 対策テキスト&過去問題集』 FOM出版 2024年 参考図書 『令和06年 イメージ&クレーバー方式でよくわかる かやのき先生のITパスポート教室』 技術評論社 2023年 『【令和6年度】 いちばんやさしい ITパスポート 絶対合格の教科書+出る順問題集』 SBクリエイティブ 2023年
(12)その他 (受講上の注意)	テキスト必携必須
(13)オフィスアワー	UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。
【大学処理欄】 昨年度からの変更箇所	(1)□ (2)□ (3)□ (4)□ (5)□ (6)□ (7)□ (8)□ (9)□ (10)－ (11)□ (12)□ (13)－

科目名	情報処理演習 b	担当教員	竹村 順吾
英語科目名	Information Processing Practicum b	単位	2単位
開講形態	演習	配当年次	2年後期
選択区分	選択	ナンバリング	HS-2251
科目区分	人間学部学部共通科目 情報科目		
求める学習成果（教育目標）	大学生としての基礎的能力ならびに専門的・実務的な知識を習得し、探求的な意欲と協同的な態度を身につけます。		

(1)身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）	☐ 自他の理解能力 ☐ コミュニケーション能力 ☒ 情報収集・探索能力 ☒ 社会・職業理解能力 ☐ 役割把握・認識能力 ☐ 計画実行能力 ☐ 選択能力 ☐ 課題解決能力
(2)授業の内容	情報技術の基礎とその社会における利用について学び、情報技術を有効に活用するための知識と態度を習得します。
(3)授業の到達目標	一般企業などにおける情報システムの利用者側としての必要な知識技能を主に習得し、業務の情報化を推進できる幅広い活用能力の獲得を目指す。 本授業では、情報処理技術者試験の一つである「ITパスポート試験(iパス)」に合格できるレベルの知識と技能を獲得することを目標とする。 参考 IT パスポート試験シラバス https://www3.jitec.ipa.go.jp/JitesCbt/html/about/range.html
(4)アクティブ・ラーニング	☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他(具体的に記述：)
(5)授業の計画及び授業外の学習方法	テキストを順次進めるほか、前回課題の解説を行う。 第1回：授業概説、第1章 ストラテジ系・企業と法務(1) 事前学習：Lesson01～7を読み、予習する (2時間) 事後学習：本日採り上げた範囲を復習、課題提出 (2時間) 第2回：第1章 ストラテジ系・企業と法務(2) 事前学習：Lesson08～15を読み、予習する (2時間) 事後学習：本日採り上げた範囲を復習、課題提出 (2時間) 第3回：第2章 ストラテジ系・経営戦略(1)、課題解説 事前学習：Lesson16～24を読み、予習する (2時間) 事後学習：本日採り上げた範囲を復習、課題提出 (2時間) 第4回：第2章 ストラテジ系・経営戦略(2)、課題解説 事前学習：Lesson25～33を読み、予習する (2時間) 事後学習：本日採り上げた範囲を復習、課題提出 (2時間) 第5回：第3章 ストラテジ系・システム戦略 事前学習：Lesson34～41を読み、予習する (2時間) 事後学習：本日採り上げた範囲を復習、課題提出 (2時間) 第6回：第4章 マネジメント系・開発技術 事前学習：Lesson42～48を読み、予習する (2時間) 事後学習：本日採り上げた範囲を復習、課題提出 (2時間) 第7回：第5章 マネジメント系・プロジェクトマネジメント 事前学習：Lesson48～55を読み、予習する (2時間) 事後学習：本日採り上げた範囲を復習、課題提出 (2時間) 第8回：第6章 マネジメント系・サービスマネジメント 事前学習：Lesson56～62を読み、予習する (2時間) 事後学習：本日採り上げた範囲を復習、課題提出 (2時間) 第9回：第7章 テクノロジ系・基礎理論 事前学習：Lesson63～69を読み、予習する (2時間) 事後学習：本日採り上げた範囲を復習、課題提出 (2時間) 第10回：第8章 テクノロジ系・コンピュータシステム(1) 事前学習：Lesson70～76を読み、予習する (2時間) 事後学習：本日採り上げた範囲を復習、課題提出 (2時間) 第11回：第8章 テクノロジ系・コンピュータシステム(2) 事前学習：Lesson77～83を読み、予習する (2時間)

	事後学習：本日採り上げた範囲を復習、課題提出（2時間） 第12回：第9章 テクノロジ系・技術要素(1) 事前学習：Lesson84～92を読み、予習する（2時間） 事後学習：本日採り上げた範囲を復習、課題提出（2時間） 第13回：第9章 テクノロジ系・技術要素(2) 事前学習：Lesson93～100を読み、予習する（2時間） 事後学習：本日採り上げた範囲を復習、課題提出（2時間） 第14回：第9章 テクノロジ系・技術要素(3) 事前学習：Lesson101～107を読み、予習する（2時間） 事後学習：本日採り上げた範囲を復習、課題提出（2時間） 第15回：第9章 テクノロジ系・技術要素(4) 事前学習：Lesson108～116を読み、予習する（2時間） 事後学習：本日採り上げた範囲を復習、課題提出（2時間） 第16回：定期試験
(6)授業実施方法(面接授業・遠隔授業)	原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(7)成績評価方法	定期試験(70%) 演習課題(20%) 平常点(10%) (平常点は、授業への参加状況・受講態度等)
(8)成績評価基準	ITパスポート試験に合格できるレベルの知識と技能を獲得できたか。
(9)課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他（具体的に記述： ） 2)事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他（具体的に記述： ） 3)小レポートに対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他（具体的に記述： ） 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他（具体的に記述： ） 5) その他（自由記述： ）に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他（具体的に記述： ）
(10)実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)	・経歴 (インターネット関連企業勤務) ・実務経験と授業内容との関連性 (IT関連企業でマーケティングや開発経験を有する教員が、社会におけるIT技術の役割を実例豊富に紹介し、企業で求められる実践的リテラシーとスキルを解説する。)
(11)テキスト・参考図書	テキスト 『令和06-07年 ITパスポート 試験によく出る問題集』 技術評論社 2024年 参考図書 『よくわかるマスター 令和6-7年度版ITパスポート試験 対策テキスト&過去問題集』 FOM出版 2024年
(12)その他（受講上の注意）	テキスト必携必須（第1回目より必要） 前期の「情報処理演習a」を受講している者を前提としている。
(13)オフィスアワー	UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。
【大学処理欄】昨年度からの変更箇所	(1)□ (2)□ (3)□ (4)□ (5)■ (6)□ (7)□ (8)□ (9)□ (10)－ (11)□ (12)□ (13)－

科目名	キャリア・デザインⅡ（人間学部）	担当教員	升田 法継
英語科目名	Career Design Ⅱ	単位	2単位
開講形態	講義	配当年次	2年後期
選択区分	選択	ナンバリング	HS-2260
科目区分	人間学部学部共通科目 修学基礎・キャリア形成科目		
求める学習成果（教育目標）	大学生としての基礎的能力ならびに専門的・実的な知識を習得し、探求的な意欲と協同的な態度を身につけます。		

(1)身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）	■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 ■社会・職業理解能力 ■役割把握・認識能力 □計画実行能力 □選択能力 □課題解決能力
(2)授業の内容	社会の中での役割を主体的に果たしながら、「自分らしい生き方」を実現するための力を育むことを目的とし、学生の自立および学生が自身の様々な可能性を発見・再確認できる機会の提供を通じて、今後の大学生活の目標を設定する。
(3)授業の到達目標	・「はたらく」ことの意味・意義について、十分に考えることができる。 ・「はたらく」ことと大学生活での「学び」を関連づけて考えることができる。
(4)アクティブ・ラーニング	□課題解決型学習(PBL) □討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) □実習、フィールドワーク □実験、実技 □その他(具体的に記述：)
(5)授業の計画及び授業外の学習方法	第1回：キャリア・デザインとは 事前学習：初回の授業ではキャリア・デザインの意味・意義について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課されたライフストーリーについて、レポートにまとめておくこと。(2時間) 第2回：ライフストーリーⅠ 事前学習：ゲストスピーカーのライフストーリーについて考えるため、自分なりに調べておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第3回：ライフストーリーⅡ 事前学習：ゲストスピーカーのライフストーリーについて考えるため、自分なりに調べておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第4回：ライフストーリーⅢ 事前学習：ゲストスピーカーのライフストーリーについて考えるため、自分なりに調べておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第5回：ライフストーリーⅣ（グループワーク・発表） 事前学習：各自調査したライフストーリーについて考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第6回：「はたらく」とは 事前学習：「はたらく」ことの意味・意義について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第7回：業界研究 事前学習：業界全体の概要について考えるため、自分なりに調べておくこと（2時間） 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第8回：職業理解Ⅰ 事前学習：金融業界について考えるため、自分なりに調べておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) ※金融業界は予定です（変更する場合があります）。 第9回：職業理解Ⅱ 事前学習：マスコミ業界について考えるため、自分なりに調べておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) ※マスコミ業界は予定です（変更する場合があります）。 第10回：職業理解Ⅲ 事前学習：流通・小売業界について考えるため、自分なりに調べておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) ※流通・小売業界は予定です（変更する場合があります）。 第11回：ライフ・デザイン 事前学習：ライフ・デザインについて考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第12回：インターンシップ

	事前学習：インターンシップの心がまえについて考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間)
	第13回：就職活動 事前学習：就職活動の心がまえについて考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間)
	第14回：自己理解 事前学習：自己理解について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間)
	第15回：まとめ 事前学習：「はたらく」ことと大学生活での「学び」について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間)
(6)授業実施方法(面接授業・遠隔授業)	原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(7)成績評価方法	課題に対する活動内容・提出物・レポート（70%）、平常点（30%） ※平常点：授業への参加状況・受講態度等を総合して判断するもの
(8)成績評価基準	・「はたらく」ことの意味・意義について、十分に考えることができるか。 ・「はたらく」ことと大学生活での「学び」を関連づけて考えることができるか。
(9)課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他（具体的に記述： 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他（具体的に記述： 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他（具体的に記述： 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他（具体的に記述： 5) その他（自由記述：リアクションペーパーに対するフィードバックについて） ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他（具体的に記述：
(10)実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)	・経歴 (元情報通信会社管理職（社員数：26万人、主な担当業務：人事、社長・取締役秘書、マーケティング、新規ビジネス開発、システムコンサルタント等)) ・実務経験と授業内容との関連性 (情報通信会社において、人事や社長・取締役スタッフ経験のある教員が、社会の中での役割を主体的に果たしながら「自分らしい生き方」を実現するための力を育むことを目的とし、学生の自立および学生が自身の様々な可能性を発見・再確認できるような機会を提供する。)
(11)テキスト・参考図書	必要に応じて、授業中に提示します。
(12)その他（受講上の注意）	「授業の計画」は、進捗や学生の反応・理解度に応じて、変更する場合があります。
(13)オフィスアワー	UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。
【大学処理欄】昨年度からの変更箇所	(1) ☐ (2) ☐ (3) ☐ (4) ☐ (5) ☐ (6) ☐ (7) ☐ (8) ☐ (9) ☐ (10)- (11) ☐ (12) ☐ (13)-

科目名	フィールドワーク演習(インターンシップ) (コミ)	担当教員	升田 法継
英語科目名	Fieldwork Practice - Internship	単位	2単位
開講形態	演習	配当年次	3年通年
選択区分	選択	ナンバリング	HS-2360
科目区分	人間学部学部共通科目 修学基礎・フィールドワーク科目		
求める学習成果（教育目標）	大学生としての基礎的能力ならびに専門的・実地的な知識を習得し、探求的な意欲と協同的な態度を身につけます。		

(1)身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）	■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 ■社会・職業理解能力 ■役割把握・認識能力 ■計画実行能力 ■選択能力 ■課題解決能力
(2)授業の内容	本授業は、主として「ふくいインターンシップ」プログラム(3年生対象)に沿って、民間企業や各種団体、自治体等における就業体験（原則として5日間）を夏期休業中に行う。インターンシップ参加者（福井県外での参加者含む）は、事前の本学教員および主催者によるガイダンスや面接等を受講し、事後の報告会等に参加することを義務づけ、就業意識の高揚をねらう。※長期コース（原則10日間）や、複数の企業・団体等による就業体験に参加（例：2つの企業・団体等を選択し、10日間の就業体験に参加）することも可能です。
(3)授業の到達目標	民間企業や各種団体・自治体等で就業体験（実習）を行い、以後の学習・研究のための動機付けを得ること、また社会人・職業人となるための自己認識、自己啓発につなげること。
(4)アクティブ・ラーニング	□課題解決型学習(PBL) □討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) □実習、フィールドワーク □実験、実技 □その他(具体的に記述：)
(5)授業の計画及び授業外の学習方法	■準備・事前研修期間 4月上旬：本学ガイダンスへの参加（学内実施） 4月上旬：インターンシップ志望動機書の提出（学内実施） 4月下旬：面接（学内実施） ※結果発表：5月上旬 4月下旬：合同ガイダンスへの参加（学外実施） 5月中旬：エントリーシートの提出（学内実施） 6月上旬：本学事前研修会への参加（学内実施） 6月下旬：就業体験先企業・団体の通知（学内実施） 7月中旬：合同事前研修会への参加（学外実施） ■就業体験期間 7月上旬～：就業体験先企業・団体と事前調整 8月上旬～9月下旬：就業体験 ■事後研修期間 10月下旬：合同事後研修会への参加（学外実施）（グループワークおよび発表） 事後学習：授業で課された「インターンシップで学んだこと」について、レポートにまとめておくこと。 11月下旬：レポートの提出（学内実施） ※テーマ：インターンシップで学んだこと ※授業外の基本的な学習(60時間) 方法として、就業体験先企業・団体の組織概要や事業内容について 調べたり、あらかじめ疑問点を考えておくなどし、問題意識をもって就業体験に参加してください（予習）。また、就業体験、研修の内容や気づいたことなどを整理・確認するなどし、次回プログラムに備えてください（復習）。
(6)授業実施方法(面接授業・遠隔授業)	原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(7)成績評価方法	就業体験先企業・団体の評価(35%)、レポート(30%)、平常点(35%) 平常点は事前研修(ガイダンス・面接を含む)の参加状況、参加意欲(志望動機)等を総合して判断する。
(8)成績評価基準	インターンシップ先の研修において、期待される行動・態度がとれているか。 就業体験をとおして、今後自己に必要な学習・研究について明確化することができているか。 民間企業や各種団体等での就業体験によって、自己の就業意識を向上することができたか。
(9)課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ■ 授業時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他（具体的に記述：） 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ■ 授業時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他（具体的に記述：） 3) 小レポートに対するフィードバックについて ■ 授業時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他（具体的に記述：） 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて □ 定期試験時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他（具体的に記述：） 5) その他（自由記述：）に対するフィードバックについて

	☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他（具体的に記述： ）
(10)実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)	元情報通信会社管理職（社員数：26万人、主な担当業務：人事、社長・取締役秘書、マーケティング、新規ビジネス開発、システムコンサルタント等） 情報通信会社において、人事や社長・取締役スタッフ経験のある教員が、学生の就業体験にあたっての心構えや留意点についての解説や就業体験後の振り返り（反省・成果の確認）の場を提供するとともに、振り返りを踏まえた今後の課題について、学生生活に関連づけて考えることができるよう促す。
(11)テキスト・参考図書	使用しない。
(12)その他（受講上の注意）	本科目の履修登録については、それぞれの担当教員ガイダンスなどを実施し、各プログラムの参加者をもって受講者とするため、通常の受講登録手続きを要しない。 ・受講希望者には、「志望動機書」の提出および面接を行い、就業意欲を認めたうえで実施する。 ・授業計画は、協力団体などの都合により、前後したり変更する場合がある。 ・第1回キャリアガイダンスにおいてスケジュールなどについて説明するので、必ず出席すること。
(13)オフィスアワー	UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。
【大学処理欄】昨年度からの変更箇所	(1) ☐ (2) ☐ (3) ☐ (4) ☐ (5) ☐ (6) ☐ (7) ☐ (8) ☐ (9) ☐ (10)- (11) ☐ (12) ☐ (13)-

科目名	臨床心理学概論Ⅰ	担当教員	稲木 康一郎
英語科目名	Introduction to Clinical PsychologyⅠ	単位	2単位
開講形態	講義	配当年次	2年前期
選択区分	選択	ナンバリング	PS-G-2221
科目区分	人間学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学専門		
求める学習成果（教育目標）	心理学の各領域における基礎的かつ一般的な知識		

(1)身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）	■自他の理解能力 □コミュニケーション能力 □情報収集・探索能力 ■社会・職業理解能力 □役割把握・認識能力 □計画実行能力 □選択能力 □課題解決能力
(2)授業の内容	臨床心理学の概説。 臨床心理学のなりたちと、臨床心理学の代表的な理論について学ぶ。
(3)授業の到達目標	臨床心理学のなりたちと代表的な理論について理解し、その概要を説明することができる。
(4)アクティブ・ラーニング	□課題解決型学習(PBL) □討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) □発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) □実習、フィールドワーク □実験、実技 ■その他(e ラーニング、リアクションペーパー)
(5)授業の計画及び授業外の学習方法	第1回：オリエンテーション（リアクションペーパー） 事前学習：シラバスを熟読すること。（2時間） 事後学習：テキストを購入して、「巻頭言」「はじめに」を読むこと。（2時間） 第2回：臨床心理学の歴史（日本） 事前学習：テキスト第1章を読むこと。（2時間） 事後学習：e ラーニングを閲覧すること。（2時間） 第3回：臨床心理学の歴史（世界） 事前学習：テキスト第2章を読むこと。（2時間） 事後学習：e ラーニングを閲覧すること。（2時間） 第4回：臨床心理学の定義（グループワーク） 事前学習：テキスト第3章を読むこと。（2時間） 事後学習：What is Clinical Psychology？（テキストP33）を翻訳すること。 また、復習テストの準備をすること。（2時間） 第5回：臨床心理学の理論①（精神分析1）（復習テスト①） 事前学習：テキスト第4章を読むこと。（2時間） 事後学習：e ラーニングを閲覧すること。（2時間） 第6回：臨床心理学の理論②（精神分析2）（復習テスト①のフィードバック） 事前学習：テキスト第4章を読むこと。（2時間） 事後学習：e ラーニングを閲覧すること。（2時間） 第7回：臨床心理学の理論③（分析心理学1） 事前学習：テキスト第5章を読むこと。（2時間） 事後学習：e ラーニングを閲覧すること。（2時間） 第8回：臨床心理学の理論④（分析心理学2） 事前学習：テキスト第5章を読むこと。（2時間） 事後学習：e ラーニングを閲覧すること。（2時間） 第9回：臨床心理学の理論⑤（行動論・認知論1） 事前学習：テキスト第6章を読むこと。（2時間） 事後学習：e ラーニングを閲覧すること。（2時間） 第10回：臨床心理学の理論⑥（行動論・認知論2） 事前学習：テキスト第6章を読むこと。また、復習テストの準備をすること。（2時間） 事後学習：e ラーニングを閲覧すること。（2時間） 第11回：臨床心理学の理論⑦（人間性心理学1）（復習テスト②） 事前学習：テキスト第7章を読むこと。（2時間） 事後学習：e ラーニングを閲覧すること。（2時間） 第12回：臨床心理学の理論⑧（人間性心理学2）（復習テスト②のフィードバック） 事前学習：テキスト第7章を読むこと。（2時間） 事後学習：e ラーニングを閲覧すること。（2時間） 第13回：臨床心理学の理論⑨（コミュニティ・アプローチ） 事前学習：テキスト第12章を読むこと。（2時間） 事後学習：e ラーニングを閲覧すること。（2時間） 第14回：臨床心理学の理論⑩（統合的アプローチ） 事前学習：テキスト第10章を読むこと。（2時間） 事後学習：e ラーニングを閲覧すること。（2時間） 第15回：「臨床心理学」の各領域に関するまとめと定期試験対策 事前学習：e ラーニングを活用して、職能団体のHPを閲覧すること。（2時間） 事後学習：e ラーニングを活用して、職能団体のHPを閲覧すること。（2時間） 第16回：定期試験

(6)授業実施方法(面接授業・遠隔授業)	原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(7)成績評価方法	定期試験（60%）、復習テスト（20%）、平常点（20%） 定期試験は指定持込用紙の持込を可とします。 復習テスト（授業時の課題に相当します）の内容は授業中に指示します。 平常点は受講態度（eラーニングの閲覧状況を含む）やリアクション・ペーパーの提出状況などで総合的に判断します。
(8)成績評価基準	臨床心理学のなりたちと代表的な理論に関して、重要な用語や概念を理解し説明することができる。
(9)課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☒ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他（具体的に記述： ） 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他（具体的に記述： ） 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他（具体的に記述： ） 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他（具体的に記述： ） 5) その他（自由記述： ）に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他（具体的に記述： ）
(10)実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)	・経歴 (公認心理師，臨床心理士) ・実務経験と授業内容との関連性 (公認心理師の教員が、心理臨床現場において基礎となる臨床心理学のなりたちと代表的な理論について講義する。)
(11)テキスト・参考図書	「臨床心理学概論 第2版」 野島一彦・岡村達也（編） 遠見書房 2,400円＋税 ISBN：978-4-86616-167-9
(12)その他（受講上の注意）	eラーニングを活用します。 eラーニングに投稿があったとき、携帯電話に情報が転送されるように設定してください。
(13)オフィスアワー	UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。
【大学処理欄】昨年度からの変更箇所	(1)□ (2)□ (3)□ (4)□ (5)□ (6)□ (7)□ (8)□ (9)□ (10)- (11)□ (12)□ (13)-

科目名	臨床心理学概論Ⅱ	担当教員	稲木 康一郎
英語科目名	Introduction to Clinical Psychology Ⅱ	単位	2単位
開講形態	講義	配当年次	2年後期
選択区分	選択	ナンバリング	PS-G-2222
科目区分	人間学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学専門		
求める学習成果（教育目標）	心理学の各領域における基礎的かつ一般的な知識		

(1)身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）	■自他の理解能力 □コミュニケーション能力 □情報収集・探索能力 ■社会・職業理解能力 □役割把握・認識能力 □計画実行能力 □選択能力 □課題解決能力
(2)授業の内容	各領域における心理療法（心理学的支援法）の心理学的臨床実践事例を学習する。 また、臨床実践における留意点を理解する。
(3)授業の到達目標	代表的な心理療法の歴史、概念、意義、適応を概説できる。 地域支援の意義、良好な人間関係の築き方、プライバシーへの配慮、要支援者の関係者に対する支援、心の健康教育について概説できる。
(4)アクティブ・ラーニング	□課題解決型学習(PBL) □討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) □グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) □発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) □実習、フィールドワーク □実験、実技 ■その他(e ラーニング、リアクションペーパー)
(5)授業の計画及び授業外の学習方法	第1回：オリエンテーション・復習テスト①（リアクションペーパー） 事前学習：「臨床心理学Ⅰ（「臨床心理学概論Ⅰ」）」の内容を復習すること。（2時間） 事後学習：同上。（2時間） 第2回：精神分析療法（代表的な心理療法の歴史、概念、意義、適応および限界） （e ラーニング・復習テスト①のフィードバック） 事前学習：e ラーニングを閲覧すること。（2時間） 事後学習：講義に取り上げたキーワードについて、要点をまとめること。（2時間） 第3回：行動療法（代表的な心理療法の歴史、概念、意義、適応および限界） 事前学習：e ラーニングを閲覧すること。（2時間） 事後学習：講義に取り上げたキーワードについて、要点をまとめること。（2時間） 第4回：来談者中心療法（代表的な心理療法の歴史、概念、意義、適応および限界） 事前学習：e ラーニングを閲覧すること。（2時間） 事後学習：講義に取り上げたキーワードについて、要点をまとめること。（2時間） 第5回：受理面接： ラポール・主訴・経過の聴き方（良好な人間関係を築くコミュニケーション） 援助構造・面接記録・守秘義務（プライバシーへの配慮） 事前学習：e ラーニングを閲覧すること。（2時間） 事後学習：復習テスト②の準備をすること（2時間） 第6回：医療①：抑うつに対する認知行動療法・復習テスト② 事前学習：復習テスト②の準備をすること。（2時間） 事後学習：講義に取り上げたキーワードについて、要点をまとめること。（2時間） 第7回：医療②：抑うつに対する認知行動療法（プライバシーへの配慮と多職種連携） （復習テスト②のフィードバック） 事前学習：e ラーニングを閲覧すること。（2時間） 事後学習：講義に取り上げたキーワードについて、要点をまとめること。（2時間） 第8回：産業①：バーンアウトに対する評価と介入 事前学習：e ラーニングを閲覧すること。（2時間） 事後学習：講義に取り上げたキーワードについて、要点をまとめること。（2時間） 第9回：産業②：バーンアウトに対する評価と介入（論理情動行動療法にもとづく心の健康教育） 事前学習：日常生活において、バーンアウトの事例を探すこと。（2時間） 事後学習：日常生活において、不合理な信念の事例を探すこと。（2時間） 第10回：教育①：スクールカウンセリングの実際（良好な人間関係を築くコミュニケーション）・復習テスト③ 事前学習：復習テスト③の準備をすること。（2時間） 事後学習：講義に取り上げたキーワードについて、要点をまとめること。（2時間） 第11回：教育②：スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカー（要支援者の関係者への支援） 事前学習：e ラーニングを閲覧すること。（2時間） 事後学習：講義に取り上げたキーワードについて、要点をまとめること。（2時間） 第12回：教育③：学生相談における心理アセスメント（心理アセスメント適用と倫理） 事前学習：e ラーニングを閲覧すること。（2時間） 事後学習：講義に取り上げたキーワードについて、要点をまとめること。（2時間） 第13回：福祉①：ぜんそく予防の応用行動分析（地域支援の意義） 事前学習：e ラーニングを閲覧すること。（2時間） 事後学習：定期試験の準備を始めること。（2時間） 第14回：福祉②：災害支援のスクールカウンセリング（心の健康教育） 事前学習：定期試験の準備をすること。（2時間） 事後学習：定期試験の準備をすること。（2時間） 第15回：「臨床心理学」の各領域の心理学的臨床実践に関するまとめと定期試験対策

	事前学習：定期試験の準備をすること。(2時間) 事後学習：定期試験の準備をすること。(2時間) 第16回：定期試験
(6)授業実施方法(面接授業・遠隔授業)	原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(7)成績評価方法	定期試験（60%）、復習テスト（30%）、平常点（10%） 定期試験は「指定持込用紙」の持込を可とします。 第1回目の冒頭に、「臨床心理学概論Ⅰ」の内容について復習テストを行います。 復習テスト（授業時の課題に相当します）の内容は授業中に指示します。 平常点は受講態度（eラーニングの閲覧状況を含む）、リアクションペーパーの提出状況などで総合的に評価します。
(8)成績評価基準	講義で取り上げた心理支援について説明できる。 地域支援の意義、良好な人間関係の築き方、要支援者の関係者に対する支援、心の健康教育について理解できる。 また、プライバシーへの配慮と関係者との情報共有のかねあいについて意見を持つ。
(9)課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他（具体的に記述：) 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他（具体的に記述：) 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他（具体的に記述：) 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他（具体的に記述：) 5) その他（自由記述： に対するフィードバックについて) ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他（具体的に記述：)
(10)実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)	・経歴 (公認心理師，臨床心理士) ・実務経験と授業内容との関連性 (公認心理師の教員が、心理臨床現場において基礎となる臨床心理学のなりたちと代表的な理論について講義する。)
(11)テキスト・参考図書	スライド資料や参考資料を e ラーニングに掲載します。
(12)その他（受講上の注意）	e ラーニングを活用します。 e ラーニングに投稿があったとき、携帯電話に情報が転送されるように設定してください。
(13)オフィスアワー	UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。
【大学処理欄】昨年度からの変更箇所	(1) ☐ (2) ☐ (3) ☐ (4) ☐ (5) ☒ (6) ☐ (7) ☐ (8) ☐ (9) ☐ (10)- (11) ☐ (12) ☐ (13)-

科目名	心理面接演習	担当教員	稲木 康一郎、目黒 達哉
英語科目名	Training Course of Clinical Interviewing	単位	2単位
開講形態	演習	配当年次	3年前期
選択区分	選択	ナンバリング	PS-F-2312
科目区分	人間学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学基礎		
求める学習成果（教育目標）	心理学の研究方法与基礎的な知識・技能・技術		

(1)身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）	■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 □社会・職業理解能力 ■役割把握・認識能力 □計画実行能力 □選択能力 □課題解決能力
(2)授業の内容	心理学分野で用いられる面接法（個人アプローチ・グループアプローチ）について学ぶ。 具体的には、心理面接法に関する基礎知識についての講義を行い、演習によって学生が体験的に学習する。
(3)授業の到達目標	①心理面接法（個人アプローチ・グループアプローチ）の基本的な理論や技法を理解する。 ②心理面接法を行う際に必要な倫理的態度を理解し、身につける。 ③積極的な演習への参加を通して、人の意見を聞き自分の意見を言える能力を身につける。
(4)アクティブ・ラーニング	□課題解決型学習(PBL) ■討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) □発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) □実習、フィールドワーク □実験、実技 ■その他(ロールプレイ)
(5)授業の計画及び授業外の学習方法	2つのグループ（A・B）が交替で2つの演習（個人アプローチ・グループアプローチ）を行う。 全体の授業計画は以下のとおり。 第1回 （全体授業）オリエンテーション・グループ分け【稲木・目黒】 第2回～第7回 （グループ別）A：個人アプローチ【目黒】、 B：グループアプローチ【稲木】 第8回 （全体授業）中間まとめと課題【目黒・稲木】 第9回～第14回（グループ別）A：グループアプローチ【稲木】、B：個人アプローチ【目黒】 第15回 （全体授業）演習全体のまとめと課題【稲木・目黒】 なお、演習の進行状況など、場合によっては、スケジュールが変更されることもあります。 以下に、Aグループの授業計画を示す。 第1回 全体授業 オリエンテーション・グループ分け 事前学習：シラバスを熟読すること。(2時間) 事後学習：講義の内容を各自で復習すること。わからないところがあったら、図書館で調べたり、eラーニングを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第2回 講義 傾聴カウンセリングの理念とスキルについて 事前学習：自分自身について気づきを深め感受性を磨くこと。 心理学のみならず幅広い分野に積極的に目を向け学習すること。(2時間) 事後学習：「ふり返し用紙」（講義の内容をまとめる）を提出すること。わからないところがあったら、図書館で調べたり、eラーニングを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第3回 演習 傾聴のスキル ― 受容・くり返し・明確化（ロールプレイ） 事前学習：自分自身について気づきを深め感受性を磨くこと。 心理学のみならず幅広い分野に積極的に目を向け学習すること。(2時間) 事後学習：演習の体験と課題について「ふり返し用紙」にまとめ、提出すること。(2時間) 第4回 演習 クライアントの語り、見方・考え方を変えてみる実習、感覚訓練（ロールプレイ） 事前学習：自分自身について気づきを深め感受性を磨くこと。 心理学のみならず幅広い分野に積極的に目を向け学習すること。(2時間) 事後学習：演習の体験と課題について「ふり返し用紙」にまとめ、提出すること。(2時間) 第5回 演習 カウンセラーからの質問、自己理解・他者理解（ロールプレイ） 事前学習：自分自身について気づきを深め感受性を磨くこと。 心理学のみならず幅広い分野に積極的に目を向け学習すること。(2時間) 事後学習：演習の体験と課題について「ふり返し用紙」にまとめ、提出すること。(2時間) 第6回 演習 沈黙とリード・対話と沈黙（ロールプレイ） 事前学習：自分自身について気づきを深め感受性を磨くこと。 心理学のみならず幅広い分野に積極的に目を向け学習すること。(2時間) 事後学習：演習の体験と課題について「ふり返し用紙」にまとめ、提出すること。(2時間) 第7回 演習 実際に悩み、戸惑い、葛藤について話してみる・フリートーク（ロールプレイ） 事前学習：自分自身について気づきを深め感受性を磨くこと。 心理学のみならず幅広い分野に積極的に目を向け学習すること。(2時間) 事後学習：演習の体験と課題について「ふり返し用紙」にまとめ、提出すること。(2時間) 第8回 全体授業 中間まとめと課題 事前学習：課題の準備をすること。(2時間) 事後学習：課題の復習をすること。(2時間) 第9回 講義 グループアプローチと多様なエクササイズについて 事前学習：新聞やTV、インターネット上の報道にふれ、社会の動きに関心を深めること。 心理学のみならず幅広い分野に積極的に目を向け学習すること。(2時間)

	事後学習：講義の内容を各自で復習すること。わからないところがあったら、図書館で調べたり、eラーニングを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第10回 演習 アイスブレイキング(グループワーク) 事前学習：新聞やTV、インターネット上の報道にふれ、社会の動きに関心を深めること。心理学のみならず幅広い分野に積極的に目を向け学習すること。(2時間) 事後学習：演習の体験について、受講生どうして話し合うこと。(2時間) 第11回 演習 心理劇(グループワーク) 事前学習：新聞やTV、インターネット上の報道にふれ、社会の動きに関心を深めること。心理学のみならず幅広い分野に積極的に目を向け学習すること。(2時間) 事後学習：演習の体験について、受講生どうして話し合うこと。(2時間) 第12回 演習 KJ法(グループワーク) 事前学習：新聞やTV、インターネット上の報道にふれ、社会の動きに関心を深めること。心理学のみならず幅広い分野に積極的に目を向け学習すること。(2時間) 事後学習：演習の体験について、受講生どうして話し合うこと。(2時間) 第13回 演習 ワールドカフェ(討議・ディスカッション) 事前学習：新聞やTV、インターネット上の報道にふれ、社会の動きに関心を深めること。心理学のみならず幅広い分野に積極的に目を向け学習すること。(2時間) 事後学習：演習の体験について、受講生どうして話し合うこと。(2時間) 第14回 講義 SCによる心理教育 事前学習：新聞やTV、インターネット上の報道にふれ、社会の動きに関心を深めること。心理学のみならず幅広い分野に積極的に目を向け学習すること。(2時間) 事後学習：課題の準備をすること。(2時間) 第15回 全体授業 演習全体のまとめと課題 事前学習：課題の準備をすること。(2時間) 事後学習：課題の復習をすること。(2時間)
(6)授業実施方法(面接授業・遠隔授業)	原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(7)成績評価方法	授業への積極的な参加(40%)、および、課題(60%)で評価する。 授業への積極的な参加は、出席・態度・発言・ワークシートの内容などを総合的に評価する。 また、演習形式の授業であるため、授業への欠席や遅刻などは厳重に減点を行う。
(8)成績評価基準	①心理面接法の基礎的かつ実践的な知識が身についているか。 ②心理面接法を行う際に必要な倫理的態度を理解し、身につけているか。 ③演習に積極的に参加し、人の意見を聞き自分の意見を言える能力を身につけているか。
(9)課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☒ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述：) 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述：) 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述：) 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述：) 5) その他(自由記述：)に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他(具体的に記述：)
(10)実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)	・経歴 (公認心理師、臨床心理士) ・実務経験と授業内容との関連性 (公認心理師の教員が、心理面接法の基本的な理論や技法、必要な倫理的態度について解説する。)
(11)テキスト・参考図書	テキストはオリエンテーション時に示す。
(12)その他(受講上の注意)	2つのグループに分かれ、交替して、個人アプローチとグループアプローチの2つの演習を行う。
(13)オフィスアワー	UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。
【大学処理欄】昨年度からの変更箇所	(1) ☐ (2) ☐ (3) ☐ (4) ☐ (5) ☐ (6) ☐ (7) ☐ (8) ☐ (9) ☐ (10)－ (11) ☐ (12) ☐ (13)－

科目名	臨床心理学演習	担当教員	渡辺 克徳、目黒 達哉
英語科目名	Training Course of Clinical Psychology	単位	2単位
開講形態	演習	配当年次	3年後期
選択区分	選択	ナンバリング	PS-API-2355
科目区分	人間学部心理学科専門科目 応用科目 臨床系		
求める学習成果（教育目標）	教育、福祉、医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得する。 人の心や行動を科学的に分析する方法や支援する方法を習得する。		

(1)身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）	■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 □情報収集・探索能力 □社会・職業理解能力 ■役割把握・認識能力 □計画実行能力 ■選択能力 ■課題解決能力
(2)授業の内容	2 クラスに分かれ前後半 6 回ごとに、いずれかの教員の指導のもと、ペアまたは少人数のグループで、いろいろな対話や表現を体験する。これらの体験を通して、自己理解・他者理解を促すとともに、傾聴などカウンセリング等の対人援助の基本的態度を身に付ける。
(3)授業の到達目標	カウンセリングにおける話の聴き方の基本を理解する。 自分自身のコミュニケーションの特徴について理解する。 ものの捉え方や考え方、コミュニケーションの仕方などの多様性について考える。 他者と円滑にコミュニケーションできる。
(4)アクティブ・ラーニング	□課題解決型学習(PBL) □討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) □実習、フィールドワーク □実験、実技 □その他(具体的に記述：)
(5)授業の計画及び授業外の学習方法	第1回： オリエンテーション 【担当： 渡辺、目黒 】 事前学習：自分自身について気づきを深め感受性を磨くために、該当する心理学領域のみならず幅広い分野に積極的に目を向け学習すること。(2時間) 事後学習：講義の内容を各自で復習すること。わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第2回： 自己理解のためのグループ体験① 【担当： 渡辺 】グループワーク・発表を行う。 事前学習：自分自身について気づきを深め感受性を磨くために、該当する心理学領域のみならず幅広い分野に積極的に目を向け学習すること。(2時間) 事後学習：講義の内容を各自で復習すること。わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第3回： 自己理解のためのグループ体験② 【担当： 渡辺 】グループワーク・発表を行う。 事前学習：自分自身について気づきを深め感受性を磨くために、該当する心理学領域のみならず幅広い分野に積極的に目を向け学習すること。(2時間) 事後学習：講義の内容を各自で復習すること。わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第4回： 自己理解のためのグループ体験③ 【担当： 渡辺 】グループワーク・発表を行う。 事前学習：自分自身について気づきを深め感受性を磨くために、該当する心理学領域のみならず幅広い分野に積極的に目を向け学習すること。(2時間) 事後学習：講義の内容を各自で復習すること。わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第5回： 自己理解のためのグループ体験④ 【担当： 渡辺 】グループワーク・発表を行う。 事前学習：自分自身について気づきを深め感受性を磨くために、該当する心理学領域のみならず幅広い分野に積極的に目を向け学習すること。(2時間) 事後学習：講義の内容を各自で復習すること。わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第6回： 自己理解のためのグループ体験⑤ 【担当： 渡辺 】グループワーク・発表を行う。 事前学習：自分自身について気づきを深め感受性を磨くために、該当する心理学領域のみならず幅広い分野に積極的に目を向け学習すること。(2時間) 事後学習：講義の内容を各自で復習すること。わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第7回： 自己理解のためのグループ体験⑥ 【担当： 渡辺 】グループワーク・発表を行う。 事前学習：自分自身について気づきを深め感受性を磨くために、該当する心理学領域のみならず幅広い分野に積極的に目を向け学習すること。(2時間) 事後学習：講義の内容を各自で復習すること。わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第8回： 集団の意思決定のためのグループ体験（全体）【担当： 渡辺・目黒 】グループワーク・発表を行う。 事前学習：自分自身について気づきを深め感受性を磨くために、該当する心理学領域のみならず幅広い分野に積極的に目を向け学習すること。(2時間) 事後学習：講義の内容を各自で復習すること。わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第 9 回 箱庭療法① 講義 箱庭療法とイメージ 【担当： 目黒 】 事前学習：箱庭療法について積極的に関心をもち、関連する図書を読んでみる。(2時間) 事後学習：講義の内容を各自で復習すること。わからないところがあったら、図書館で調べるか、オフィスアワーを利用して担当教員に質問する。(2時間) 第10回 箱庭療法② 演習 グループによる箱庭作り 【担当： 目黒 】グループワーク・発表を行う。

	事前学習：自分自身について気づきを深め感受性を磨くこと。(2時間) 事後学習：演習で体験した内容や感じたこと、考えたことをノートにまとめる。(2時間) 第11回 箱庭療法③ 演習 箱庭を作る・見守る・解釈する 【担当： 目黒 】グループワーク・発表を行う。 事前学習：どのような箱庭を作りたいのか、各自でイメージしてくる。(2時間) 事後学習：演習で体験した内容や感じたこと、考えたことをノートにまとめる。(2時間) 第12回 箱庭療法④ 演習 夢と箱庭 【担当： 目黒 】グループワーク・発表を行う。 事前学習：自分が見た夢について思い出し、ストーリーをまとめてくる。(2時間) 事後学習：演習で体験した内容や感じたこと、考えたことをノートにまとめる。(2時間) 第13回 絵画療法① 講義・演習 バウムテストによる自己分析 【担当： 目黒 】 事前学習：バウムテストについて関連する文献、図書を読んでみる。(2時間) 事後学習：講義内容を各自で復習し、また、自己分析の結果から学んだこと、感じたことをまとめてみる。(2時間) 第14回 絵画療法② 演習 バウムテストを指標とした摂食障害の事例研究 【担当： 目黒 】グループワーク・発表を行う。 事前学習：摂食障害について文献、図書を読んでみる。(2時間) 事後学習：事例研究から学んだこと、感じたことをまとめてみる。(2時間) 第15回 まとめと振り返り(全体) 【担当： 渡辺・目黒 】グループワーク・発表を行う。 事前学習：これまでに体験した言語的アプローチ、表現芸術アプローチについて振り返ってみる。(2時間) 事後学習：演習で体験した内容や感じたこと、考えたことをノートにまとめる。(2時間) ※第1回の際にクラス分けを行う。第2回～第8回(前半)と第9回～第15回(後半)でそれぞれに異なる担当教員のもとで演習を行う。渡辺(言語的アプローチ)、目黒(表現芸術アプローチ)
(6)授業実施方法(面接授業・遠隔授業)	原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(7)成績評価方法	授業中に課す課題(60%)と授業への参加態度(40%)で評価する。 授業への参加態度については、演習活動への積極性や授業中の発言の内容などから総合的に評価する。 体験型学習ですので出席を重視し、欠席は厳しく減点する。
(8)成績評価基準	カウンセリングにおける話の聴き方の基本について説明できるか。また、それを模擬的に実践できるか。 自分自身の考え方やコミュニケーションなどの特徴について説明できるか。 考え方やコミュニケーションの仕方の多様性について考えられるか。 他者と円滑にコミュニケーションが行えるか。
(9)課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ■ 授業時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：) 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて □ 授業時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：) 3) 小レポートに対するフィードバックについて □ 授業時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：) 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて □ 定期試験時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：) 5) その他(自由記述：)に対するフィードバックについて □ 授業時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述：)
(10)実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)	・経歴 (公認心理師、臨床心理士) ・実務経験と授業内容との関連性 (公認心理師の教員が、教育、福祉、医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得するために演習を行う。)
(11)テキスト・参考図書	授業時に資料を配付する。 そのほか、参考書については、授業時に随時、紹介する。
(12)その他(受講上の注意)	授業の中で状況に応じて、自分の感じたことや考えたことについて他者に話してもらうことがある。
(13)オフィスアワー	UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。
【大学処理欄】昨年度からの変更箇所	(1)□ (2)□ (3)□ (4)□ (5)□ (6)□ (7)□ (8)□ (9)□ (10)－ (11)□ (12)□ (13)－

科目名	健康・医療心理学	担当教員	渡辺 克徳
英語科目名	Health and Medical Psychology	単位	2単位
開講形態	講義	配当年次	2年前期
選択区分	選択	ナンバリング	PS-G-2223
科目区分	人間学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学専門		
求める学習成果（教育目標）	健康・医療心理学の基礎的かつ一般的な知識を習得する。		

(1)身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）	☐ 自他の理解能力 ☐ コミュニケーション能力 ☒ 情報収集・探索能力 ☒ 社会・職業理解能力 ☒ 役割把握・認識能力 ☐ 計画実行能力 ☐ 選択能力 ☐ 課題解決能力
(2)授業の内容	公認心理師をはじめ心理職が保健医療領域で行う業務について理解し必要な知識を習得する。
(3)授業の到達目標	健康・医療心理学の基本を説明することができる。 保健医療領域における心理職の専門性とその業務について説明することができる。 チーム医療の一員として心理職に期待されている事柄について説明することができる。 公認心理師が身につけておくべき事柄について説明することができる。
(4)アクティブ・ラーニング	☐ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他(具体的に記述：)
(5)授業の計画及び授業外の学習方法	第1回：健康心理学 事前学習：授業前にテキストの各章を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：テキスト等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第2回：健康心理学におけるアセスメントと支援 事前学習：授業前にテキストの各章を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：テキスト等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第3回：ストレスマネジメント 事前学習：授業前にテキストの各章を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：テキスト等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第4回：各種の心理支援法 事前学習：授業前にテキストの各章を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：テキスト等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 小レポート課題（健康心理学のまとめ） 第5回：医療心理学 事前学習：授業前にテキストの各章を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：テキスト等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第6回：医療心理学におけるアセスメントと支援 事前学習：授業前にテキストの各章を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：テキスト等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第7回：精神科，児童精神科 事前学習：授業前にテキストの各章を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：テキスト等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第8回：院内型独立型心理室 事前学習：授業前にテキストの各章を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：テキスト等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第9回：心療内科 事前学習：授業前にテキストの各章を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：テキスト等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第10回：小児科 事前学習：授業前にテキストの各章を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：テキスト等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第11回：緩和医療 事前学習：授業前にテキストの各章を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間） 事後学習：テキスト等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第12回：産業保健 事前学習：授業前にテキストの各章を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間）

	事後学習：テキスト等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第13回：地域保健活動の実際 事前学習：授業前にテキストの各章を読み、質問項目をまとめておくこと (2時間) 事後学習：テキスト等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第14回：災害心理学 事前学習：授業前にテキストの各章を読み、質問項目をまとめておくこと (2時間) 事後学習：テキスト等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第15回：多職種協働と医療連携 事前学習：授業前にテキストの各章を読み、質問項目をまとめておくこと (2時間) 事後学習：テキスト等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第16回：定期試験
(6)授業実施方法(面接授業・遠隔授業)	原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(7)成績評価方法	小レポート+最終試験 (85%) 平常点 (15%) (平常点は、授業への参加状況・理解度チェックQ and Aで評価します。)
(8)成績評価基準	公認心理師が身につけておくべき健康心理学と医療心理学について説明することができる。
(9)課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ■ 授業時 □ 仁大eラーニング □ メール ■ その他 (具体的に記述： Moodleの機能を用いていつでも疑問・質問に対応) 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて □ 授業時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他 (具体的に記述：) 3) 小レポートに対するフィードバックについて □ 授業時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他 (具体的に記述：) 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて □ 定期試験時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他 (具体的に記述：) 5) その他 (自由記述： に対するフィードバックについて) □ 授業時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他 (具体的に記述：)
(10)実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)	・経歴 (公認心理師、臨床心理士) ・実務経験と授業内容との関連性 (公認心理師の教員が、心理職が保健医療領域で行う業務と専門性について講義する。)
(11)テキスト・参考図書	宮脇稔・大野 太郎・藤本 豊・松野 俊夫『健康・医療心理学』医歯薬出版株式会社, 2025 第2版 ISBN978-4-263-26686-1
(12)その他 (受講上の注意)	講義は公認心理師養成カリキュラムに対応しています。日本心理学会が公開している大学カリキュラム・標準シラバス等も参考に学習してください。
(13)オフィスアワー	UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。
【大学処理欄】昨年度からの変更箇所	(1)□ (2)□ (3)□ (4)□ (5)□ (6)□ (7)□ (8)□ (9)□ (10)－ (11)■ (12)□ (13)－

科目名	感情・人格心理学	担当教員	森 俊之
英語科目名	Psychology of Emotion and Personality	単位	2単位
開講形態	講義	配当年次	1年後期
選択区分	選択	ナンバリング	PS-G-2125
科目区分	人間学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学専門		
求める学習成果（教育目標）	心理学の各領域における基礎的かつ一般的な知識		

(1)身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）	■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 □社会・職業理解能力 ■役割把握・認識能力 □計画実行能力 □選択能力 □課題解決能力
(2)授業の内容	感情および性格に関する諸理論や研究を概観し、感情や性格を理解するための枠組みについて学ぶ。その上で、自己や他者の感情や性格をどのように理解し、対人関係の問題にどのように対処したらよいかを考える。
(3)授業の到達目標	・感情心理学や性格心理学に関する基本的用語を説明できる。 ・感情や性格に関する心理学研究について説明できる。 ・自分の感情や性格について心理学的に考察し評価できる。
(4)アクティブ・ラーニング	□課題解決型学習(PBL) □討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) □発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) □実習、フィールドワーク □実験、実技 □その他(具体的に記述：)
(5)授業の計画及び授業外の学習方法	第1回：性格とは 事後学習：授業で指定されたキーワードについて、参考書などで言葉の意味を調べるとともに、授業で理解したことも含め自分なりの言葉に置き換えて書き直してみる。(4時間) 第2回：性格の類型論 事前学習：前回の授業の最後に予告されたキーワードについて、参考書などで言葉の意味を調べておく(2時間) 事後学習：事前学習で調べたキーワードを、授業で理解したことも含め、自分なりの言葉に置き換えて書き直してみる。(2時間) 第3回：性格の特性論 事前学習：前回の授業の最後に予告されたキーワードについて、参考書などで言葉の意味を調べておく(2時間) 事後学習：事前学習で調べたキーワードを、授業で理解したことも含め、自分なりの言葉に置き換えて書き直してみる。(2時間) 第4回：脳と性格 事前学習：前回の授業の最後に予告されたキーワードについて、参考書などで言葉の意味を調べておく(2時間) 事後学習：事前学習で調べたキーワードを、授業で理解したことも含め、自分なりの言葉に置き換えて書き直してみる。(2時間) 第5回：性格の遺伝 事前学習：前回の授業の最後に予告されたキーワードについて、参考書などで言葉の意味を調べておく(2時間) 事後学習：事前学習で調べたキーワードを、授業で理解したことも含め、自分なりの言葉に置き換えて書き直してみる。(2時間) 第6回：ライフサイクルと性格 事前学習：前回の授業の最後に予告されたキーワードについて、参考書などで言葉の意味を調べておく(2時間) 事後学習：事前学習で調べたキーワードを、授業で理解したことも含め、自分なりの言葉に置き換えて書き直してみる。(2時間) 第7回：家族関係・対人関係・文化と性格 事前学習：前回の授業の最後に予告されたキーワードについて、参考書などで言葉の意味を調べておく(2時間) 事後学習：事前学習で調べたキーワードを、授業で理解したことも含め、自分なりの言葉に置き換えて書き直してみる。(2時間) 第8回：健康と性格 事前学習：前回の授業の最後に予告されたキーワードについて、参考書などで言葉の意味を調べておく(2時間) 事後学習：事前学習で調べたキーワードを、授業で理解したことも含め、自分なりの言葉に置き換えて書き直してみる。(2時間) 第9回：性格の病気：人格障害 事前学習：前回の授業の最後に予告されたキーワードについて、参考書などで言葉の意味を調べておく(2時間) 事後学習：事前学習で調べたキーワードを、授業で理解したことも含め、自分なりの言葉に置き換えて書き直してみる。(2時間) 第10回：性格の測定 事前学習：前回の授業の最後に予告されたキーワードについて、参考書などで言葉の意味を調べておく(2時間) 事後学習：事前学習で調べたキーワードを、授業で理解したことも含め、自分なりの言葉に置き換えて書き直してみる。(2時間) 第11回：感情とは 事前学習：前回の授業の最後に予告されたキーワードについて、参考書などで言葉の意味を調べておく(2時間) 事後学習：事前学習で調べたキーワードを、授業で理解したことも含め、自分なりの言葉に置き換えて書き直してみる。(2時間) 第12回：感情の生理過程 事前学習：前回の授業の最後に予告されたキーワードについて、参考書などで言葉の意味を調べておく(2時間) 事後学習：事前学習で調べたキーワードを、授業で理解したことも含め、自分なりの言葉に置き換えて書き直してみる。(2時間)

	第13回：感情の起源と発達 事前学習：前回の授業の最後に予告されたキーワードについて、参考書などで言葉の意味を調べておく（2時間） 事後学習：事前学習で調べたキーワードを、授業で理解したことも含め、自分なりの言葉に置き換えて書き直してみる。（2時間） 第14回：感情が認知や行動にもたらす影響 事前学習：前回の授業の最後に予告されたキーワードについて、参考書などで言葉の意味を調べておく（2時間） 事後学習：事前学習で調べたキーワードを、授業で理解したことも含め、自分なりの言葉に置き換えて書き直してみる。（2時間） 第15回：感情の障害 事前学習：前回の授業の最後に予告されたキーワードについて、参考書などで言葉の意味を調べておく（2時間） 事後学習：事前学習で調べたキーワードを、授業で理解したことも含め、自分なりの言葉に置き換えて書き直してみる。（2時間） 第16回：期末試験 ※各回（初回を除く）とも、授業の前半に前回の事後学習の成果をグループで紹介しあう時間を設ける。（グループワーク）
(6)授業実施方法(面接授業・遠隔授業)	原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(7)成績評価方法	学期末に実施する筆記試験（80%）と授業中に指示する課題・授業時の態度等（20%）をもとに評価する。
(8)成績評価基準	・感情心理学や性格心理学に関する基本的用語を説明できるか。 ・感情や性格に関する心理学的研究について説明できるか。 ・自分の感情や性格について心理学的に評価できるか。
(9)課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ■ 授業時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他（具体的に記述： ） 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ■ 授業時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他（具体的に記述： ） 3) 小レポートに対するフィードバックについて □ 授業時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他（具体的に記述： ） 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ■ 定期試験時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他（具体的に記述： ） 5) その他（自由記述： ）に対するフィードバックについて) □ 授業時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他（具体的に記述： ）
(10)実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)	・経歴 (公認心理師，臨床心理士) ・実務経験と授業内容との関連性 (公認心理師の教員が、感情および性格に関する諸理論や研究について講義し、自己や他者の理解と対人関係の問題への対処に関して解説する。)
(11)テキスト・参考図書	教科書は指定しない。適宜、補助資料を配付する。 参考書は授業中、随時、紹介する。
(12)その他（受講上の注意）	-
(13)オフィスアワー	UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。
【大学処理欄】昨年度からの変更箇所	(1)□ (2)□ (3)□ (4)□ (5)□ (6)□ (7)□ (8)□ (9)□ (10)- (11)□ (12)□ (13)-

科目名	心理的アセスメント	担当教員	森 俊之
英語科目名	Psychological Assessment	単位	2単位
開講形態	演習	配当年次	2年前期
選択区分	選択	ナンバリング	PS-F-2209
科目区分	人間学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学基礎		
求める学習成果（教育目標）	心理学の研究方法与基礎的な知識・技能・技術		

(1)身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）	■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 □社会・職業理解能力 □役割把握・認識能力 □計画実行能力 □選択能力 ■課題解決能力
(2)授業の内容	心理的アセスメント（観察法、面接法、検査法）の基礎について、講義と演習を交えながら学ぶ。心理的アセスメントの目的や意義、倫理等について学んだ後、具体的な演習を交えながら、観察法、面接法、検査法について学ぶ。実習した内容については、実習結果をまとめるレポート提出が課せられ、レポートの書き方についても、学ぶ。
(3)授業の到達目標	・心理的アセスメントの目的や意義、倫理等について説明できる。 ・心理的アセスメントの主要な方法について、それぞれの方法の意義や特徴、限界等について説明できるとともに、基礎的なアセスメント方法の一部を実施できる。 ・心理的アセスメントの結果の記録や報告ができる。 ・自分自身の性格や話し方の特徴などを多角的に分析し、説明できる。
(4)アクティブ・ラーニング	□課題解決型学習(PBL) □討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) □発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ■実習、フィールドワーク □実験、実技 □その他(具体的に記述：)
(5)授業の計画及び授業外の学習方法	第1回：心理的アセスメントの目的、意義、倫理 事後学習：授業で学んだアセスメントの意義等のポイントをまとめる（4時間） 第2回：観察法・面接法の理解① 事後学習：授業で学んだ観察法・面接法のポイントをまとめる（4時間） 第3回：観察法・面接法の理解②（行動観察して記録する実習が含まれる） 事後学習：授業中の作業の続きを行う（4時間） 第4回：観察法・面接法の理解③（行動観察して記録する実習が含まれる） 事後学習：授業で体験した観察実習の結果をレポートにまとめる（4時間） 第5回：心理検査法の理解 事後学習：授業で学んだ心理検査法のポイントをまとめる（4時間） 第6回：知能検査・発達検査の理解① 事後学習：授業で学んだ知能検査・発達検査のポイントをまとめる（4時間） 第7回：知能検査・発達検査の理解②（心理検査を体験して分析する実習が含まれる） 事後学習：授業で体験した心理検査の分析作業の続きを行う（4時間） 第8回：知能検査・発達検査の理解③（心理検査を体験して分析する実習が含まれる） 事後学習：授業で体験した心理検査の結果をレポートにまとめる（4時間） 第9回：質問紙検査の理解① 事後学習：授業で学んだ質問紙検査のポイントをまとめる（4時間） 第10回：質問紙検査の理解②（心理検査を体験して分析する実習が含まれる） 事後学習：授業で体験した心理検査の分析作業の続きを行う（4時間） 第11回：質問紙検査の理解③（心理検査を体験して分析する実習が含まれる） 事後学習：授業で体験した心理検査の結果をレポートにまとめる（4時間） 第12回：投射法その他の心理検査の理解① 事後学習：授業で学んだ投射法その他の心理検査のポイントをまとめる（4時間） 第13回：投射法その他の心理検査の理解②（心理検査を体験して分析する実習が含まれる） 事後学習：授業で体験した心理検査の分析作業の続きを行う（4時間） 第14回：投射法その他の心理検査の理解③（心理検査を体験して分析する実習が含まれる） 事後学習：授業で体験した心理検査の結果をレポートにまとめる（4時間） 第15回：テストバッテリーと総合的理解 事後学習：授業で学んだテストバッテリーのポイントをまとめる（4時間）

	第16回：期末試験 ※各回（最終回を除く）とも授業の最初に、前回の授業後の事後学習の内容についての振り返りを行う。
(6)授業実施方法(面接授業・遠隔授業)	原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(7)成績評価方法	授業後に課す課題をレポート（60％）として提出してもらうとともに、学期末に筆記試験（40％）を行い、両者により評価する。実習を伴うため、出席状況や受講態度が悪い場合は、厳しく減点する。
(8)成績評価基準	・さまざまな心理検査の種類を理解し、それぞれの検査の効用と限界について説明できるか。 ・課題として取り上げた心理検査について、実施手順や分析手順を理解し、一通り実施できるか。 ・自分自身の性格について多角的に分析し、他者に説明できるか。
(9)課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他（具体的に記述： ） 2)事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他（具体的に記述： ） 3)小レポートに対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他（具体的に記述： ） 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☒ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他（具体的に記述： ） 5) その他（自由記述： に対するフィードバックについて) ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他（具体的に記述： ）
(10)実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)	・経歴 (公認心理師、臨床心理士) ・実務経験と授業内容との関連性 (公認心理師の教員が、心理的アセスメントの基礎について、その目的や意義、倫理などを解説する。)
(11)テキスト・参考図書	<テキスト>とくに指定しない。 <参考図書>津川律子・遠藤裕乃編「心理的アセスメント（公認心理師の基礎と実践14）」（遠見書房、2019年発行）。その他、適宜、授業内で紹介する。
(12)その他（受講上の注意）	・実習を含むので、出席と熱心な受講態度を期待する。 ・自分自身の性格等の自己開示が必要な場合がある。 ・心理検査の学習者・実施者の倫理（授業時に説明）を守り、検査の知識を安易に使用しないこと。
(13)オフィスアワー	UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。
【大学処理欄】昨年度からの変更箇所	(1) ☐ (2) ☐ (3) ☐ (4) ☐ (5) ☒ (6) ☐ (7) ☐ (8) ☐ (9) ☐ (10)- (11) ☐ (12) ☐ (13)-

科目名	公認心理師の職責（公認心理師に関する科目）	担当教員	稲木 康一郎、森 俊之、吉水 ちひろ、渡辺 克徳、目黒 達哉
英語科目名	Professionalism of Licensed Psychologists	単位	2単位
開講形態	講義	配当年次	4年前期
選択区分	選択	ナンバリング	PS-S-2491
科目区分	人間学部心理学科専門科目 公認心理師に関する科目		
求める学習成果（教育目標）	教育、福祉、医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得する。 人の心や行動を科学的に分析する方法や支援する方法を習得する。 組織や集団における行動の原理を理解し、実社会における人間関係の心理について学ぶ。		

(1)身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）	☐ 自他の理解能力 ☐ コミュニケーション能力 ☐ 情報収集・探索能力 ☒ 社会・職業理解能力 ☒ 役割把握・認識能力 ☐ 計画実行能力 ☐ 選択能力 ☐ ☒ 課題解決能力
(2)授業の内容	公認心理師に必要な、公認心理師の役割、公認心理師の法的義務及び倫理、要心理支援者の安全の確保、情報の適切な取扱い、自己課題発見・解決能力、生涯学習への準備、多職種連携及び地域連携についての知識を身につけます。また、保健医療、福祉、教育その他の分野における公認心理師の具体的な業務について理解します。
(3)授業の到達目標	① 公認心理師の役割を理解し、法的義務や倫理、チーム支援、守秘義務のあり方等について知る。 ② 保健医療、福祉、教育その他の分野における公認心理師の具体的な業務について説明できる。 ③ 心理職としての自己課題とその課題解決能力を理解し、生涯学習に取り組む態度を身につける。
(4)アクティブ・ラーニング	☐ 課題解決型学習（PBL） ☐ 討議（ディスカッション、ディベート） ☐ グループワーク ☐ 発表（プレゼンテーション） ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他（具体的に記述： ）
(5)授業の計画及び授業外の学習方法	公認心理師の主要5分野の教員によるオムニバス授業です。5人の教員が3つのテーマを取り上げます。各テーマの内容の多少によって、各教員内で順番や時間数を入れ替えることがあります。時間割の変更にご注意ください。 Part 1【渡辺】保健医療分野ほか 第1回 オリエンテーション 事前学習：シラバスを熟読すること（2時間）。 事後学習：講義の内容を各自で復習すること。（2時間） 第2回 公認心理師の役割 事前学習：テキスト第1章を読み、疑問点をメモしておくこと（2時間）。 事後学習：講義の内容について受講生どうして話し合うこと（2時間）。 第3回 保健医療分野における公認心理師の具体的な業務 事前学習：テキスト第5章を読み、疑問点をメモしておくこと（2時間）。 事後学習：小レポートを作成すること。わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問したりすること（2時間）。 Part 2【森】福祉分野ほか 第4回 公認心理師の法的義務・倫理 事前学習：テキスト第2章を読み、疑問点をメモしておくこと（2時間）。 事後学習：講義の内容を各自で復習すること（2時間）。 第5回 要心理支援者の安全の確保 事前学習：テキスト第3章を読み、疑問点をメモしておくこと（2時間）。 事後学習：講義の内容について受講生どうして話し合うこと（2時間）。 第6回 福祉分野における公認心理師の具体的な業務 事前学習：テキスト第6章を読み、疑問点をメモしておくこと（2時間）。 事後学習：小レポートを作成すること。わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問したりすること（2時間）。 Part 3【目黒】教育分野ほか 第7回 情報の適切な取り扱い 事前学習：テキスト第4章を読み、疑問点をメモしておくこと（2時間）。 事後学習：講義の内容を各自で復習すること（2時間）。 第8回 支援者としての自己課題発見・解決能力 事前学習：テキスト第10章を読み、疑問点をメモしておくこと（2時間）。 事後学習：講義の内容について受講生どうして話し合うこと（2時間）。 第9回 教育分野における公認心理師の具体的な業務 事前学習：テキスト第7章を読み、疑問点をメモしておくこと（2時間）。 事後学習：小レポートを作成すること。わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問したりすること（2時間）。 Part 4【吉水】司法・犯罪分野ほか 第10回 生涯学習への準備 事前学習：テキスト第11章を読み、疑問点をメモしておくこと（2時間）。 事後学習：講義の内容を各自で復習すること（2時間）。 第11回 多職種連携と地域連携 事前学習：テキスト第12章を読み、疑問点をメモしておくこと（2時間）。 事後学習：講義の内容について受講生どうして話し合うこと（2時間）。 第12回 司法・犯罪分野における公認心理師の具体的な業務 事前学習：テキスト第8章を読み、疑問点をメモしておくこと（2時間）。

	事後学習：小レポートを作成すること。わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問したりすること（2時間）。 Part 5【稲木】産業・労働分野ほか 第13回 公認心理師の今後の展開 事前学習：テキスト第13章を読み、疑問点をメモしておくこと（2時間）。 事後学習：講義の内容を各自で復習すること（2時間）。 第14回 産業・労働分野における公認心理師の具体的な業務 事前学習：テキスト第9章を読み、疑問点をメモしておくこと（2時間）。 事後学習：講義の内容について受講生どうして話し合うこと（2時間）。 第15回 まとめ 事前学習：これまでテキストを読んでメモした疑問点を整理しておくこと（2時間）。 事後学習：小レポートを作成すること。わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問したりすること（2時間）。 第16回 定期試験
(6)授業実施方法(面接授業・遠隔授業)	原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(7)成績評価方法	平常点（15%）、小レポート（テスト）（25%）、および、定期試験（60%）で評価する。 平常点は出席・態度・発言・課題（ワークシート等）の提出状況などを総合的に評価する。 また、小テスト（レポート）は各教員が1回ずつ行うので指示に従うこと。 定期試験は資料の持込を不可とする。
(8)成績評価基準	①公認心理師の役割が理解できているか。 ②公認心理師の具体的な業務を説明できるか。 ③生涯学習に取り組む態度が身についているか。
(9)課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ■授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他（具体的に記述： ） 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他（具体的に記述： ） 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他（具体的に記述： ） 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他（具体的に記述： ） 5) その他（自由記述： ）に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他（具体的に記述： ）
(10)実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)	・経歴 （公認心理師，臨床心理士） ・実務経験と授業内容との関連性 （公認心理師の教員が、公認心理師の役割、法的義務及び倫理をはじめ、保健医療、福祉、教育その他の分野における具体的な業務について説明します。）
(11)テキスト・参考図書	野島一彦（編）『公認心理師の職責』遠見書房 2018年 2,200円 ISBN:978-4-86616-166-2
(12)その他（受講上の注意）	公認心理師資格に必要な特設科目です。 国家試験対策として、大学院生が聴講する場合があります。
(13)オフィスアワー	UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。
【大学処理欄】昨年度からの変更箇所	(1) ☐ (2) ☐ (3) ☐ (4) ☐ (5) ☐ (6) ☐ (7) ☐ (8) ☐ (9) ☐ (10) ☐ (11) ☐ (12) ☐ (13) ☐

科目名	心理検査演習	担当教員	吉水 ちひろ、青井 利哉、中尾 繁史
英語科目名	Training Course of Psychological Testing	単位	2単位
開講形態	演習	配当年次	3年前期
選択区分	選択	ナンバリング	PS-F-2310
科目区分	人間学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学基礎		
求める学習成果（教育目標）	心理学の研究方法や基礎的知識を習得する。		

(1)身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）	■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 ■社会・職業理解能力 □役割把握・認識能力 □計画実行能力 □選択能力 □課題解決能力
(2)授業の内容	この授業では、心理検査の背景理論や実施方法について学習した後、実際に検査者と被検者の双方を体験する。これを通して、心理検査を正しく理解するだけでなく、その効用と限界の認識、さらに倫理性をわきまえた態度を身につけていく。また、一定の決められた実施法や解釈の仕方などを習得する中で、新たな自分への気づきや他者理解へと繋げることを目的とする。
(3)授業の到達目標	・心理検査の種類を理解し、各検査の効用と限界について説明できる。 ・心理検査の実施に際して、実施手順や分析手順を理解し施行できる。 ・心理検査を用いるときの倫理的配慮や注意事項について説明することができる。 ・自分自身の性格を多角的に分析し、他者に説明できる。
(4)アクティブ・ラーニング	□課題解決型学習(PBL) □討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) □グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) □発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ■実習、フィールドワーク □実験、実技 □その他(具体的に記述：)
(5)授業の計画及び授業外の学習方法	この授業では、さまざまな心理検査について体験的学習を行うためにグループ別にて演習を行う。以下のように4週ごとに異なる検査について学ぶ。 第1回：オリエンテーション 事前学習：心理的アセスメントを振り返り、基礎的な知識の復習をしておく。(2時間) 事後学習：テキストを参照し、質問項目をまとめておく。(2時間) 第2回：アセスメントにおける心理検査法の役割・レポートの書き方についての説明 事前学習：授業のテーマについてテキストを見直し、自分なりの意見をまとめておく。(2時間) 事後学習：関連することを参考文献等で調べ、ポイントを整理しまとめておく。(2時間) 第3回：質問紙法検査（STAI、MAS、CMI）・投映法検査（風景構成法、SCT）・知能検査（WAIS-IV）①実習 事前学習：テキストの該当する章や参考文献を読み、質問項目をまとめておく。(2時間) 事後学習：授業で課された課題について、レポートにまとめておく。(2時間) 第4回：質問紙法検査（STAI、MAS、CMI）・投映法検査（風景構成法、SCT）・知能検査（WAIS-IV）②実習 事前学習：テキストの該当する章や参考文献を読み、質問項目をまとめておく。(2時間) 事後学習：授業で課された課題について、レポートにまとめておく。(2時間) 第5回：質問紙法検査（STAI、MAS、CMI）・投映法検査（風景構成法、SCT）・知能検査（WAIS-IV）③実習 事前学習：テキストの該当する章や参考文献を読み、質問項目をまとめておく。(2時間) 事後学習：授業で課された課題について、レポートにまとめておく。(2時間) 第6回：質問紙法検査（STAI、MAS、CMI）・投映法検査（風景構成法、SCT）・知能検査（WAIS-IV）④実習 事前学習：テキストの該当する章や参考文献を読み、質問項目をまとめておく。(2時間) 事後学習：授業で課された課題について、レポートにまとめておく。(2時間) 第7回：質問紙法検査（STAI、MAS、CMI）・投映法検査（風景構成法、SCT）・知能検査（WAIS-IV）①実習 事前学習：テキストの該当する章や参考文献を読み、質問項目をまとめておく。(2時間) 事後学習：授業で課された課題について、レポートにまとめておく。(2時間) 第8回：質問紙法検査（STAI、MAS、CMI）・投映法検査（風景構成法、SCT）・知能検査（WAIS-IV）②実習 事前学習：テキストの該当する章や参考文献を読み、質問項目をまとめておく。(2時間) 事後学習：授業で課された課題について、レポートにまとめておく。(2時間) 第9回：質問紙法検査（STAI、MAS、CMI）・投映法検査（風景構成法、SCT）・知能検査（WAIS-IV）③実習 事前学習：テキストの該当する章や参考文献を読み、質問項目をまとめておく。(2時間) 事後学習：授業で課された課題について、レポートにまとめておく。(2時間) 第10回：質問紙法検査（STAI、MAS、CMI）・投映法検査（風景構成法、SCT）・知能検査（WAIS-IV）④実習 事前学習：テキストの該当する章や参考文献を読み、質問項目をまとめておく。(2時間) 事後学習：授業で課された課題について、レポートにまとめておく。(2時間) 第11回：質問紙法検査（STAI、MAS、CMI）・投映法検査（風景構成法、SCT）・知能検査（WAIS-IV）①実習 事前学習：テキストの該当する章や参考文献を読み、質問項目をまとめておく。(2時間) 事後学習：授業で課された課題について、レポートにまとめておく。(2時間) 第12回：質問紙法検査（STAI、MAS、CMI）・投映法検査（風景構成法、SCT）・知能検査（WAIS-IV）②実習 事前学習：テキストの該当する章や参考文献を読み、質問項目をまとめておく。(2時間) 事後学習：授業で課された課題について、レポートにまとめておく。(2時間) 第13回：質問紙法検査（STAI、MAS、CMI）・投映法検査（風景構成法、SCT）・知能検査（WAIS-IV）③実習 事前学習：テキストの該当する章や参考文献を読み、質問項目をまとめておく。(2時間) 事後学習：授業で課された課題について、レポートにまとめておく。(2時間) 第14回：質問紙法検査（STAI、MAS、CMI）・投映法検査（風景構成法、SCT）・知能検査（WAIS-IV）④実習 事前学習：テキストの該当する章や参考文献を読み、質問項目をまとめておく。(2時間) 事後学習：授業で課された課題について、レポートにまとめておく。(2時間) 第15回：演習の振り返りとまとめ

	事前学習：これまでの演習を復習しておく。（２時間） 事後学習：授業の到達目標に達しているかを確認する。（２時間） ※各検査の担当者は〔 〕に示す通りである。質問紙法検査〔青井〕、投影法検査〔吉水〕、知能検査〔中尾〕 予習：テキストおよび参考文献を用いて各回で取り上げる心理検査について予習し、基本的な事柄について理解しておくこと。 復習：授業で体験した心理検査を通して、考えたことや感じたことをまとめておくこと。また、授業時間だけでは作業が終わらない場合は、残った作業を遂行して次の授業に臨むこと。
(6)授業実施方法(面接授業・遠隔授業)	原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(7)成績評価方法	授業への参加状況や受講態度（30％）、検査ごとに作成する課題レポート（60％）、演習全体を通じた小レポート（10％）などから総合的に評価する。心理検査を用いた演習を行うため、出席状況や受講態度が悪い場合は、厳しく減点する。
(8)成績評価基準	・心理検査の種類を理解し、各検査の効用と限界について説明できるか。 ・心理検査の実施に際して、実施手順や分析手順を理解し施行できるか。 ・心理検査を用いるときの倫理的配慮や注意事項について説明することができるか。 ・自分自身の性格を多角的に分析し、他者に説明できるか。
(9)課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他（具体的に記述： ） 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他（具体的に記述： ） 4) レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他（具体的に記述： ） 5) その他（自由記述：)に対するフィードバックについて) ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他（具体的に記述： ）
(10)実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)	・経歴 (公認心理師，臨床心理士) ・実務経験と授業内容との関連性 (公認心理師の教員の指導の下、心理検査法の背景理論や実施方法、効用と限界の認識について理解するために演習を行う。)
(11)テキスト・参考図書	各検査毎に必要な資料を配布したり、参考図書を指示する。
(12)その他（受講上の注意）	・実習を含むので、出席と熱心な受講態度を期待する。 ・自分自身の性格等の自己開示が必要な場合がある。 ・心理検査の学習者・実施者の倫理（授業時に説明）を守り、検査の知識を安易に使用しないこと。
(13)オフィスアワー	UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。
【大学処理欄】昨年度からの変更箇所	(1)□ (2)□ (3)□ (4)□ (5)□ (6)□ (7)□ (8)□ (9)□ (10)－ (11)□ (12)□ (13)－

科目名	産業カウンセリング	担当教員	黒田 優希
英語科目名	Industrial Counseling	単位	2単位
開講形態	講義	配当年次	3年後期
選択区分	選択	ナンバリング	PS-CP0-2375
科目区分	人間学部心理学科専門科目 応用科目 産業・社会系		
求める学習成果（教育目標）	教育、福祉、医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得する。 組織や集団における行動の原理を理解し、実社会における人間関係の心理について学ぶ。		

(1)身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）	■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 □情報収集・探索能力 ■社会・職業理解能力 ■役割把握・認識能力 □計画実行能力 □選択能力 ■課題解決能力
(2)授業の内容	産業カウンセリングの実際や職場のメンタルヘルス対策について学習する。
(3)授業の到達目標	産業現場における問題や、メンタルヘルス対策について、自分の考えを持つ。 自身のストレスに気づき、対処する技能について知る。
(4)アクティブ・ラーニング	□課題解決型学習(PBL) ■討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) □グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) □発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ■実習、フィールドワーク □実験、実技 □その他(具体的に記述：)
(5)授業の計画及び授業外の学習方法	第1回： オリエンテーション、産業現場の問題 －働くことは『 』より大切か－ 事前学習：現在の日本の職場環境についてニュースなどで調べておく。（2時間） 事後学習：講義で扱った内容について情報収集を行う。新聞記事を読む。（2時間） 第2回： 産業をとりまく環境の変化 －文明の利器は人を幸せにするか－ 事前学習：産業の歴史について調べておく。（2時間） 事後学習：講義で扱った内容について情報収集を行う。（2時間） 第3回：働く人の心の病 －うつ病は誰の責任か－ 事前学習：うつ病について知識を得ておく。（2時間） 事後学習：様々なタイプのうつ病について調べる。講義の中で紹介した文献を調べる（2時間） 第4回：うつ病からの回復、休職と復職 －もしうつ病になったらどうなる－ 事前学習：活用できる資源、制度について調べておく。（2時間） 事後学習：講義で扱った内容について情報収集を行う。（2時間） 第5回：自殺の問題と対策 －自殺は個人の自由意思によるか－ 事前学習：自殺者数の推移や自殺対策、国による考えの違いについて調べる。（2時間） 事後学習：自殺対策について復習をする。講義の中で紹介した文献を調べる。（2時間） 第6回：多様な精神疾患の紹介、ここまでの論点のまとめ 事前学習：うつ病以外の精神疾患について調べておく。ここまでの資料を読み直す。（2時間） 事後学習：中間レポートの課題について、情報を収集する。（2時間） 第7回： ストレスの理論 －労働者のストレス－ 事前学習：ストレスのモデルについて調べておく。（2時間） 事後学習：自身にとってのストレスヤーやストレス反応について検討をする。（2時間） 第8回：ストレスと健康 －ストレスチェックの導入－ 事前学習：ストレスによる健康被害やストレスチェック制度について調べる。（2時間） 事後学習：ストレスチェックに関連した情報を振り返る。働き方改革について調べる。（2時間） 第9回：ストレスマネジメントとコーピング －セルフケアの重要性－ 事前学習：ストレスコーピングについて情報収集を行う。（2時間） 事後学習：自身がすでに行っている対処法について振り返る。（2時間） 第10回：セルフケア① －リラックスして働いてみる－（実習） 事前学習：リラクゼーションの方法について調べておく。自分なりのリラックス法を振り返る。（2時間） 事後学習：講義の中で実習したリラックス法を試してみる。（2時間） 第11回：セルフケア② －物事の受け止め方を変えてみる－（実習・ディスカッション） 事前学習：認知行動療法について文献で調べておく。（2時間） 事後学習：講義で使用したワークシートを用いてみる。（2時間） 第12回：セルフケア③ －自己主張をしてみる－（実習） 事前学習：アサーティブなコミュニケーションについて調べておく。自分のスタイルを考える。（2時間） 事後学習：アサーティブなコミュニケーションについて、講義の内容をもとに考える。（2時間） 第13回：対人関係療法の紹介とセルフケアのまとめ － 事前学習：自分自身のストレスヤーやライフイベントを把握し整理しておく。（2時間） 事後学習：ストレスとコーピングのワークシートを作成する。（2時間） 第14回：事例をもとに考える（ディスカッション） 事前学習：事例を多角的に理解するため、ここまでに学習したことについて振り返る。（4時間） 第15回：産業カウンセリングに関するまとめ －働くことは『 』より大切か－ 事前学習：期末レポートの課題について、わからないところを質問する。（2時間） 事後学習：期末レポートを作成する。（2時間）
(6)授業実施方法(面接授業・遠隔授業)	原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

(7)成績評価方法	中間レポート（30％）＋期末レポート（30％）＋平常点（40％） （平常点は授業の参加状況、受講態度、質問カードの提出内容などで総合的に判断します。）
(8)成績評価基準	産業領域におけるメンタルヘルスについて、問題点と対策が説明できるか。 講義で取り扱う問題について、自分の考えを持つことができるか。 ストレスへの対応について説明ができるか。
(9)課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他（具体的に記述： ） 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他（具体的に記述： ） 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他（具体的に記述： ） 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他（具体的に記述： ） 5) その他（自由記述： ）に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他（具体的に記述： ）
(10)実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)	・経歴 (公認心理師，臨床心理士) ・実務経験と授業内容との関連性 (公認心理師の教員が、精神疾患や復職支援の実際についての講義を行う。これから社会に出るうえで身につけておきたいメンタルヘルスに関する知識を習得し、社会問題について考えることの土台を作ることを目指す。)
(11)テキスト・参考図書	参考図書については講義の中で紹介する。
(12)その他（受講上の注意）	授業の進行状況によって、授業計画に変更を加える可能性もある。
(13)オフィスアワー	UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。
【大学処理欄】昨年度からの変更箇所	(1) ☐ (2) ☐ (3) ☐ (4) ☐ (5) ☐ (6) ☐ (7) ☐ (8) ☐ (9) ☐ (10)- (11) ☐ (12) ☐ (13)-

科目名	デジタル・デザイン (2512032～2512062)	担当教員	吉村 正照
英語科目名	Digital Design	単位	2単位
開講形態	演習	配当年次	1年前期
選択区分	選択	ナンバリング	CO-F-2109
科目区分	人間学部コミュニケーション学科専門科目 基幹科目 コミュニケーション学基礎B群(スキル)		
求める学習成果（教育目標）	コミュニケーションに関する知識、言語やその他のコミュニケーション・ツールの活用スキルを修得し、国際社会や地域社会を広い視野からとらえる基礎力を身につけます。		

(1)身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）	☐ 自他の理解能力 ☒ コミュニケーション能力 ☐ 情報収集・探索能力 ☒ 社会・職業理解能力 ☐ 役割把握・認識能力 ☒ 計画実行能力 ☐ 選択能力 ☒ 課題解決能力
(2)授業の内容	視覚的なコミュニケーションのための表現方法について、知識・技術の基礎を身に付ける。グラフィックデザインの基本ルールの理解と平行して、コンピュータのアプリケーションを用いたグラフィックデザインの技法を習得していく。
(3)授業の到達目標	社会においてデザインが必要とされている理由を理解する。デザインの基本ルール（色、文字、レイアウト）について理解する。コンピュータを用いたグラフィックデザインの技法を習得する。デザインを駆使してコミュニケーションを生み出す能力を身に付ける。
(4)アクティブ・ラーニング	☒ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☒ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他(具体的に記述：)
(5)授業の計画及び授業外の学習方法	第1回 授業概要、制作ツールの紹介（実習） 事前学習（2時間）教科書の目次を読み、教科書中の図案を閲覧する 事後学習（2時間）練習用の制作環境を整える 第2回 制作ツール Figma の基本操作① 画面の操作、基本的な図形の作成・移動・変形・複製、色の設定（実習） 事前学習（2時間）配布資料を読んで制作ツールを使ってみる 事後学習（2時間）制作ツールの使い方を復習する 第3回 制作ツール Figma の基本操作② 文字の入力、設定（フォント、サイズ、太さ、文字間隔、行送り、揃え）、レイアウトグリッド（実習） 事前学習（2時間）配布資料を読んで制作ツールを使ってみる 事後学習（2時間）制作ツールの使い方を復習する 第4回 制作ツール Figma の基本操作③ 各種図形の作成、グループ化、ペンツール、重なり順の変更（実習） 事前学習（2時間）配布資料を読んで制作ツールを使ってみる 事後学習（2時間）制作ツールの使い方を復習する 第5回 文字と書体（実習） 事前学習（2時間）教科書の第1章を読む 事後学習（2時間）デザインの原則と制作ツールの使い方を復習する 第6回 文章のデザイン（実習） 事前学習（2時間）教科書の第2章を読む 事後学習（2時間）デザインの原則と制作ツールの使い方を復習する 第7回 図表のデザイン（実習） 事前学習（2時間）教科書の第3章3-1～7を読む 事後学習（2時間）デザインの原則と制作ツールの使い方を復習する 第8回 写真と画像（実習） 事前学習（2時間）教科書の第3章3-8～10を読む 事後学習（2時間）デザインの原則と制作ツールの使い方を復習する 第9回 レイアウトの基本（実習） 事前学習（2時間）教科書の第4章4-1～12を読む 事後学習（2時間）デザインの原則と制作ツールの使い方を復習する 第10回 配色の基本（実習） 事前学習（2時間）教科書の第4章4-13～17を読む 事後学習（2時間）デザインの原則と制作ツールの使い方を復習する 第11回 制作ツール Adobe Illustrator の基本操作① 画面の操作、図形の編集、ペンツール、塗りと線、色の設定（実習） 事前学習（2時間）配布資料を読んで制作ツールを使ってみる 事後学習（2時間）制作ツールの使い方を復習する 第12回 制作ツール Adobe Illustrator の基本操作② 文字の設定、グループ化、画像の配置、マスク、レイヤー、アートボード（実習） 事前学習（2時間）配布資料を読んで制作ツールを使ってみる 事後学習（2時間）制作ツールの使い方を復習する 第13回 制作ツール Adobe Illustrator の基本操作③ 用紙サイズ、PDF形式で保存、印刷（実習） 事前学習（2時間）配布資料を読んで制作ツールを使ってみる 事後学習（2時間）制作ツールの使い方を復習する 第14回 最終課題① イベント告知のデザイン（課題解決型学習、グループワーク） 事前学習（2時間）最終課題について先行事例を調査する 事後学習（2時間）期日までに課題作品を完成し、eラーニングに提出する 第15回 最終課題② プレゼンテーション（課題解決型学習、グループワーク、発表） 事前学習（2時間）プレゼンテーションを準備する 事後学習（2時間）レビューの結果を踏まえて課題作品の完成度を高め、eラーニングに提出する

(6)授業実施方法(面接授業・遠隔授業)	原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(7)成績評価方法	期末課題作品（40%） 授業毎の作品（30%） 授業毎の小テスト・レポート（30%）
(8)成績評価基準	・制作ツールの扱い方を理解し、速く正確に作業ができたか。 ・グラフィックデザインの基本を理解し活用できたか、 ・目的や対象を想定し、観る人の側に立ったデザインができたか。 ・デザインの意図を言語化して説明できたか。
(9)課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☒ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他（具体的に記述： ） 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☒ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他（具体的に記述： ） 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☒ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他（具体的に記述： ） 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☒ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他（具体的に記述： ） 5) その他（自由記述： ）に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他（具体的に記述： ）
(10)実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)	・経歴 (WEBデザイナー) ・実務経験と授業内容との関連性 (WEBデザイナーとしての業務経験を有する教員が、グラフィックデザインの技法について演習を行う。)
(11)テキスト・参考図書	テキスト：高橋佑磨，片山なつ「伝わるデザインの基本」技術評論社, 2021年 参考図書：授業内で紹介する
(12)その他（受講上の注意）	授業を欠席した場合は、eラーニングにて授業内容を確認し次回の授業までに課題を提出してください。技術を習得するためには反復練習が欠かせません。短時間でも構わないので、1～2日に一度は制作ツールにふれるようにしましょう。
(13)オフィスアワー	UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。
【大学処理欄】昨年度からの変更箇所	(1) ☐ (2) ☐ (3) ☐ (4) ☐ (5) ☐ (6) ☐ (7) ☐ (8) ☐ (9) ☐ (10) ☐ (11) ☐ (12) ☐ (13) ☐

科目名	メディア・デザインⅠa (新：メディア・デザインⅠa)	担当教員	吉村 正照
英語科目名	Media DesignⅠa	単位	2単位
開講形態	演習	配当年次	2年後期
選択区分	選択	ナンバリング	CO-B-2252
科目区分	人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 ビジネスコース		
求める学習成果（教育目標）	企画力・マネジメント力の向上を通して、組織・地域・社会の課題の解決に向けて主体的に取り組む力を育成します。		

(1)身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）	☐ 自他の理解能力 ☒ コミュニケーション能力 ☒ 情報収集・探索能力 ☒ 社会・職業理解能力 ☐ 役割把握・認識能力 ☒ 計画実行能力 ☐ 選択能力 ☒ 課題解決能力
(2)授業の内容	映像表現を用いたコミュニケーション方法について、知識・技術の基礎を身に付ける。メディア（テレビ、ウェブ等）や目的（PV、CM等）に応じた映像表現の基本ルールの理解と平行して、コンピュータのアプリケーションを用いた映像表現の技法を習得していく。
(3)授業の到達目標	現在において動画コンテンツが有効とされている理由を理解する。映像表現の基本ルール・手法について理解する。コンピュータを用いた映像表現の技法を習得する。映像表現を駆使してコミュニケーションを生み出す能力を身に付ける。
(4)アクティブ・ラーニング	☒ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☒ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他(具体的に記述：)
(5)授業の計画及び授業外の学習方法	第1回 授業概要、制作ツールの紹介（実習） 事前学習（2時間）教科書を読む 事後学習（2時間）制作者の視点で映像をみるようにする 第2回 映像の原理、時間操作、カットつなぎ、ストップモーションアニメーション（実習、グループワーク） 事前学習（2時間）教科書を読む 事後学習（2時間）学んだ技法を試す 第3回 撮影の基本：カメラの設定、構図、カメラワーク、撮影実習（実習、グループワーク）※雨天時は他の回と入れ替える 事前学習（2時間）教科書を読む 事後学習（2時間）学んだ技法を試す 第4回 制作ツール Adobe Premiere Pro の基本操作：画面の操作、素材の読み込み。カットをつなぐ（実習） 事前学習（2時間）教科書を読む 事後学習（2時間）学んだ技法を試す 第5回 カットつなぎにおける様々な技法（実習） 事前学習（2時間）教科書を読む 事後学習（2時間）学んだ技法を試す 第6回 テロップのデザイン（実習） 事前学習（2時間）教科書を読む 事後学習（2時間）学んだ技法を試す 第7回 音の効果と補正（実習） 事前学習（2時間）教科書を読む 事後学習（2時間）学んだ手法を試す 第8回 ナレーションの追加（実習） 事前学習（2時間）教科書を読む 事後学習（2時間）学んだ手法を試す 第9回 企画、絵コンテ（実習） 事前学習（2時間）教科書を読む 事後学習（2時間）学んだ技法を試す 第10回 練習課題① 企画、撮影（実習、グループワーク） 事前学習（2時間）企画を練り、絵コンテにまとめる 事後学習（2時間）撮影作業を完了する 第11回 練習課題② 編集（実習） 事前学習（2時間）編集技法を復習する 事後学習（2時間）編集作業を完了する 第12回 練習課題③ プレゼンテーション（グループワーク、発表） 事前学習（2時間）プレゼンテーションを準備をする 事後学習（2時間）グループでレビューを行い、作品の完成度を高める 第13回 最終課題① 企画・撮影（課題解決型学習、フィールドワーク） 事前学習（2時間）企画を練り、絵コンテにまとめる 事後学習（2時間）撮影作業を完了する 第14回 最終課題② 編集（課題解決型学習、実習） 事前学習（2時間）編集技法を復習する 事後学習（2時間）編集作業を完了し、eラーニングに提出する 第15回 最終課題③ プレゼンテーション（課題解決型学習、発表） 事前学習（2時間）プレゼンテーションを準備をする 事後学習（2時間）作品の完成度を高め、eラーニングに提出する

(6)授業実施方法(面接授業・遠隔授業)	原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(7)成績評価方法	期末課題作品（40％） 授業毎の作品（30％） 授業毎の小テスト・レポート（30％）
(8)成績評価基準	・制作ツールの扱い方を理解し、速く正確に作業ができたか。 ・映像表現の基本を理解し活用できたか、 ・目的や対象を想定し、観る人の側に立った映像表現ができたか。 ・映像表現の意図を言語化して説明できたか。
(9)課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☒ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他（具体的に記述： ） 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☒ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他（具体的に記述： ） 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☒ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他（具体的に記述： ） 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☒ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他（具体的に記述： ） 5) その他（自由記述： ）に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他（具体的に記述： ）
(10)実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)	・経歴 (WEBデザイナー) ・実務経験と授業内容との関連性 (WEBデザイナーとしての業務経験を有する教員が、映像表現の技法について演習を行う。)
(11)テキスト・参考図書	テキスト：Rec Plus「センスがUPする 動画編集の教科書」ビー・エヌ・エヌ, 2023年 参考図書：授業内で紹介する
(12)その他（受講上の注意）	授業を欠席した場合は、eラーニングにて授業内容を確認し次回の授業までに課題を提出してください。 技術を習得するためには反復練習が欠かせません。短時間でも構わないので、1～2日に一度は制作ツールにふれるようにしましょう。
(13)オフィスアワー	UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。
【大学処理欄】昨年度からの変更箇所	(1)□ (2)□ (3)□ (4)□ (5)□ (6)□ (7)□ (8)□ (9)□ (10)－ (11)□ (12)□ (13)－

科目名	メディア・デザインⅠb(新：メディア・デザインⅠb)	担当教員	吉村 正照
英語科目名	Media Design Ⅰb	単位	2単位
開講形態	演習	配当年次	2年後期
選択区分	選択	ナンバリング	CO-B-2253
科目区分	人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 ビジネスコース		
求める学習成果（教育目標）	企画力・マネジメント力の向上を通して、組織・地域・社会の課題の解決に向けて主体的に取り組む力を育成します。		

(1)身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）	☐ 自他の理解能力 ☒ コミュニケーション能力 ☒ 情報収集・探索能力 ☒ 社会・職業理解能力 ☐ 役割把握・認識能力 ☒ 計画実行能力 ☐ 選択能力 ☒ 課題解決能力
(2)授業の内容	ウェブメディアにおけるコミュニケーション方法について、知識・技術の基礎を身に付ける。ウェブメディアの理解と共に、UIデザインの技法（情報設計、プロトタイピング）やHTML/CSSによるWebページ制作の技法を習得していく。
(3)授業の到達目標	現在におけるウェブメディアの役割を理解する。ウェブサイトの構築手法および技法を習得する。ウェブを介してコミュニケーションを生み出す能力を身に付ける。
(4)アクティブ・ラーニング	☒ 課題解決型学習(PBL) ☐ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☒ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他(具体的に記述：)
(5)授業の計画及び授業外の学習方法	第1回 授業概要、制作ツールの紹介（実習） 事前学習（2時間）普段の生活でよく利用するウェブサイトを10個ピックアップする 事後学習（2時間）練習用の制作環境を整える 第2回 情報設計、ワイヤーフレーム（実習） 事前学習（2時間）配布資料を読む 事後学習（2時間）学んだ技法を試す 第3回 UIパーツの作成（実習） 事前学習（2時間）配布資料を読む 事後学習（2時間）学んだ技法を試す 第4回 UIパーツのレイアウト（実習） 事前学習（2時間）配布資料を読む 事後学習（2時間）学んだ技法を試す 第5回 色スタイル・文字スタイルの管理、UIパーツの管理（実習） 事前学習（2時間）配布資料を読む 事後学習（2時間）学んだ技法を試す 第6回 レスポンシブデザイン（実習） 事前学習（2時間）配布資料を読む 事後学習（2時間）学んだ技法を試す 第7回 コードエディタやWebブラウザの基本操作、Webページで扱う画像の形式（実習） 事前学習（2時間）配布資料を読む 事後学習（2時間）コードエディタの使い方を復習する 第8回 HTMLの書き方① 見出し、本文、リンク、メディアの埋め込み（実習） 事前学習（2時間）配布資料を読む 事後学習（2時間）コードの書き方を復習する 第9回 HTMLの書き方② ヘッダー、フッター、ナビゲーション、セクション、リスト、表、フォーム（実習） 事前学習（2時間）配布資料を読む 事後学習（2時間）コードの書き方を復習する 第10回 CSSの書き方① 文字、色（実習） 事前学習（2時間）配布資料を読む 事後学習（2時間）コードの書き方を復習する 第11回 CSSの書き方② ボックスモデル（実習） 事前学習（2時間）配布資料を読む 事後学習（2時間）コードの書き方を復習する 第12回 CSSの書き方③ レイアウト（実習） 事前学習（2時間）配布資料を読む 事後学習（2時間）コードの書き方を復習する 第13回 CSSの書き方④ メディアクエリ（実習） 事前学習（2時間）配布資料を読む 事後学習（2時間）コードの書き方を復習する 第14回 最終課題① Webページ制作（課題解決型学習、実習） 事前学習（2時間）最終課題について先行事例を調査する 事後学習（2時間）期日までに課題作品を完成し、eラーニングに提出する 第15回 最終課題② プレゼンテーション（課題解決型学習、発表） 事前学習（2時間）プレゼンテーションを準備をする 事後学習（2時間）作品の完成度を高め、eラーニングに提出する

(6)授業実施方法(面接授業・遠隔授業)	原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(7)成績評価方法	期末課題作品（40％） 授業毎の作品（30％） 授業毎の小テスト・レポート（30％）
(8)成績評価基準	・制作ツールの扱い方を理解し、速く正確に作業ができたか。 ・UIデザインの基本を理解し活用できたか、 ・目的や対象を想定し、観る人の側に立ったUIデザインができたか。 ・UIデザインの意図を言語化して説明できたか。
(9)課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☒ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他（具体的に記述： ） 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☒ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他（具体的に記述： ） 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☒ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他（具体的に記述： ） 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☒ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他（具体的に記述： ） 5) その他（自由記述： ）に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他（具体的に記述： ）
(10)実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)	・経歴 (WEBデザイナー) ・実務経験と授業内容との関連性 (WEBデザイナーとしての業務経験を有する教員が、WEBサイト制作の技法について演習を行う。)
(11)テキスト・参考図書	テキスト：使用しない 参考図書：授業内で紹介する
(12)その他（受講上の注意）	授業を欠席した場合は、eラーニングにて授業内容を確認し次回の授業までに課題を提出してください。技術を習得するためには反復練習が欠かせません。短時間でも構わないので、1～2日に一度は制作ツールにふれるようにしましょう。
(13)オフィスアワー	UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。
【大学処理欄】昨年度からの変更箇所	(1)□ (2)□ (3)□ (4)□ (5)□ (6)□ (7)□ (8)□ (9)□ (10)－ (11)□ (12)□ (13)－

科目名	コミュニケーション概論	担当教員	升田 法継
英語科目名	Introduction to Communication	単位	2単位
開講形態	講義	配当年次	1年前期
選択区分	必修	ナンバリング	CO-F-2101
科目区分	人間学部コミュニケーション学科専門科目 基幹科目 コミュニケーション学基礎A群		
求める学習成果（教育目標）	コミュニケーションに関する知識、言語やその他のコミュニケーション・ツールの活用スキルを修得し、国際社会や地域社会を広い視野からとらえる基礎力を身につけます。		

(1)身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）	■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 □情報収集・探索能力 ■社会・職業理解能力 □役割把握・認識能力 □計画実行能力 □選択能力 □課題解決能力
(2)授業の内容	本講義は、コミュニケーションに関する基本的な考え方を学ぶとともに、実社会と繋がるコミュニケーションのあり方について理解を深めることを目的としています。
(3)授業の到達目標	・主なコミュニケーション理論を理解する。 ・コミュニケーションと他者理解および社会との繋がりについて、講義の内容を踏まえながら、自身の考えを述べる。 ・場や他者を考慮したコミュニケーションを日常生活で実践する。
(4)アクティブ・ラーニング	□課題解決型学習(PBL) □討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) □実習、フィールドワーク □実験、実技 □その他(具体的に記述：)
(5)授業の計画及び授業外の学習方法	第1回： オリエンテーション 事前学習：シラバスを読み、興味・関心のあるテーマについて調べたり、質問事項をまとめておく。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第2回： コミュニケーションの学びについて 事前学習：コミュニケーションを学ぶ意義・意味について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第3回： 家族とコミュニケーション 事前学習：家族とのコミュニケーションについて考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第4回： 社会とコミュニケーション 事前学習：社会とのコミュニケーションについて考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第5回： 対人コミュニケーション 事前学習：対人コミュニケーションについて考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第6回： 非言語コミュニケーション 事前学習：非言語コミュニケーションについて考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第7回： 分かりやすいとは 事前学習：分かりやすい表現について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第8回： 発想（グループワーク） 事前学習：アイデア創出について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第9回： 合意形成（グループワーク・発表） 事前学習：合意形成について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第10回： リーダーシップ 事前学習：リーダーシップについて考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第11回：セルフ・リーダーシップ 事前学習：自分とのコミュニケーションについて考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第12回： 逸脱（いじめ） 事前学習：「いじめ」について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間)

	事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第13回：メディア・コミュニケーション 事前学習：メディア・コミュニケーションについて考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第14回：ビジネス・コミュニケーション 事前学習：ビジネス・コミュニケーションについて考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第15回：まとめ 事前学習：授業全体の振り返りおよび確認問題に取り組むので、これまでの授業内容を確認しておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間)
(6)授業実施方法(面接授業・遠隔授業)	原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(7)成績評価方法	課題に対する取り組み内容・提出物（70％）、平常点（30％） ※平常点：授業への参加状況および受講態度等から総合的に判断します。
(8)成績評価基準	・主なコミュニケーション理論を理解しているか。 ・コミュニケーションと他者理解および社会との繋がりについて、講義の内容を踏まえながら、自身の考えを述べられるか。 ・場や他者を考慮したコミュニケーションを日常生活で実践できるか。
(9)課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他（具体的に記述：_____） 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他（具体的に記述：_____） 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他（具体的に記述：_____） 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他（具体的に記述：_____） 5) その他（自由記述：リアクションペーパーに対するフィードバックについて） ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他（具体的に記述：_____）
(10)実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)	元情報通信会社管理職（社員数：26万人、主な担当業務：人事、社長・取締役秘書、マーケティング、新規ビジネス開発、システムコンサルタント等） 情報通信会社において、人事や社長・取締役スタッフ経験もある教員が、コミュニケーションに関する基本的な考え方や類型や実社会と繋がるコミュニケーションのあり方について解説する。
(11)テキスト・参考図書	必要に応じて、授業中に提示します。
(12)その他（受講上の注意）	「授業計画」は、学生の反応・理解度や事業の進捗に応じて、前後したり変更する場合があります。
(13)オフィスアワー	UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。
【大学処理欄】昨年度からの変更箇所	(1) ☐ (2) ☐ (3) ☐ (4) ☐ (5) ☐ (6) ☐ (7) ☐ (8) ☐ (9) ☐ (10) ☐ (11) ☐ (12) ☐ (13) ☐

科目名	プロジェクト・デザイン入門	担当教員	升田 法継
英語科目名	Introduction to Project Design	単位	2単位
開講形態	演習	配当年次	1年後期
選択区分	選択	ナンバリング	CO-A-2117
科目区分	人間学部コミュニケーション学科専門科目 基幹科目 コミュニケーション学専門		
求める学習成果（教育目標）	国際化・情報化社会において文化の相互交流に資する豊かな表現力を育成し、課題解決のための構想力と判断力を身につけるための専門性を身につけます。		

(1)身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）	■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 ■社会・職業理解能力 ■役割把握・認識能力 ■計画実行能力 ■選択能力 ■課題解決能力
(2)授業の内容	環境変化のスピードが加速するとともに、予測も困難になってきている今日において、正解を導き出す力よりも、正解のない答えや最善策をメンバーとともに模索していく力が求められている。授業では、多面的・複眼的思考により仮説を設定・プランを策定し、試行錯誤しながら自分達の結論を導き出すための問題解決型のコミュニケーション能力の向上を狙いとする。
(3)授業の到達目標	・プロジェクトの特徴や意義について説明することができる。 ・問題解決型プロジェクトの基本的な進め方について説明することができる。 ・助言やサポートを受けながら、メンバーとともに対策・施策を検討し他者に効果的に伝えることができる。
(4)アクティブ・ラーニング	■課題解決型学習(PBL) □討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) □実習、フィールドワーク □実験、実技 □その他(具体的に記述：)
(5)授業の計画及び授業外の学習方法	第1 回：プロジェクトの特徴 事前学習：プロジェクトの特徴について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第2 回：PDCA（グループワーク） 事前学習：評価・改善行動の重要性について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第3 回：ビジョンの設定（グループワーク） 事前学習：ビジョンの設定について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第4 回：現状把握Ⅰ（グループワーク） 事前学習：事前調査を行うため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第5 回：現状把握Ⅱ（グループワーク） 事前学習：現地調査を行うため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第6回：現状把握Ⅱ（グループワーク） 事前学習：前回に続き現地調査を行うため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第7回：問題点の設定・課題抽出 事前学習：問題点の設定と課題抽出を行うため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第8回：対策の検討（グループワーク） 事前学習：対策の検討を行うため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第9回：対策の評価・選定（グループワーク） 事前学習：検討した対策を評価し選定するため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第10回：対策のイメージ検討（グループワーク） 事前学習：選定した対策の実施イメージについて検討するため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第11 回：企画書の整理 事前学習：これまでの検討資料を整理するため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第12 回：代表プレゼンの選定（発表・プレゼンテーション） 事前学習：代表プレゼンを選定するため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間)

	事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間)
	第13回：代表プレゼンのレビュー（グループワーク） 事前学習：代表プレゼンのレビューを行うため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間)
	第14回：プレゼンテーションⅠ（発表・プレゼンテーション） 事前学習：A・B・C・Dグループのプレゼンテーションを行うため、自分なりのレビューの視点をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間)
	第15回：プレゼンテーションⅡ（発表・プレゼンテーション） 事前学習：E・F・G・Hグループのプレゼンテーションを行うため、自分なりのレビューの視点をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間)
(6)授業実施方法(面接授業・遠隔授業)	原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(7)成績評価方法	課題に対する活動内容・提出物（60%）、平常点（40%） ※平常点：授業への参加状況、受講態度等から総合的に判断します。
(8)成績評価基準	・プロジェクトの特徴や意義について説明することができるか。 ・問題解決型プロジェクトの基本的な進め方について説明することができるか。 ・助言やサポートを受けながら、メンバーとともに対策・施策を検討し他者に効果的に伝えることができるか。
(9)課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ■ 授業時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他（具体的に記述： 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ■ 授業時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他（具体的に記述： 3) 小レポートに対するフィードバックについて ■ 授業時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他（具体的に記述： 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて □ 定期試験時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他（具体的に記述： 5) その他（自由記述：リアクションペーパーに対するフィードバックについて ■ 授業時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他（具体的に記述：
(10)実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)	元情報通信会社管理職（社員数：26万人、主な担当業務：人事、社長・取締役秘書、マーケティング、新規ビジネス開発、システムコンサルタント等） 情報通信会社において、新規ビジネス開発や大規模プロジェクト（県市町防災システム等）のプロジェクトリーダー経験もある教員が、プロジェクトの特徴や意義及び問題解決型プロジェクトの基本的な進め方について解説する。
(11)テキスト・参考図書	必要に応じて、授業中に提示します。
(12)その他（受講上の注意）	・グループワークを主体とした授業構成となっているので、メンバーに与える影響も考慮し欠席しないようにしてください。 ・課題等のアウトプットについては、レビューや振り返りを通じてフィードバックします。 ・「授業計画」は、進捗や学生の反応・理解度に応じて、変更する場合があります。
(13)オフィスアワー	UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。
【大学処理欄】昨年度からの変更箇所	(1)□ (2)□ (3)□ (4)□ (5)□ (6)□ (7)□ (8)□ (9)□ (10)- (11)□ (12)□ (13)-

科目名	メディア・コミュニケーション論（ビジネスコース）	担当教員	升田 法継
英語科目名	Study of Media Communication	単位	2単位
開講形態	講義	配当年次	2年前期
選択区分	選択	ナンバリング	CO-BS-2250
科目区分	人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 ビジネスコース		
求める学習成果（教育目標）	企画力・マネジメント力の向上を通して、組織・地域・社会の課題の解決に向けて主体的に取り組む力を育成します。		

(1)身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）	■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 □社会・職業理解能力 ■役割把握・認識能力 □計画実行能力 ■選択能力 □課題解決能力
(2)授業の内容	情報社会と呼ばれる今日では、様々なメディアが私たちの生活に深く入り込み、日常のコミュニケーションを通じて社会のあり様を大きく変えている。授業では、情報が溢れかえる時代において、物事の本質を問う力、考える力、および表現する力の向上を狙いつつ、
(3)授業の到達目標	・メディア理論に関して、その要諦と社会的意味の位置づけを説明することができる。 ・メディアと社会の変容について分析することができる。また、自身の意見をもち考えを述べるすることができる。
(4)アクティブ・ラーニング	□課題解決型学習(PBL) □討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) □実習、フィールドワーク □実験、実技 □その他(具体的に記述：)
(5)授業の計画及び授業外の学習方法	第1回：メディア・コミュニケーションとは 事前学習：メディアの意味・役割について意見交換をするため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第2回：メディア・リテラシーⅠ 事前学習：メディア・リテラシーについて考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第3回：メディア・リテラシーⅡ 事前学習：前回に続きメディア・リテラシーについて考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第4回：メディア・リテラシーⅢ 事前学習：前回に続きメディア・リテラシーについて考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第5回：新聞と社会の変容 事前学習：新聞と社会の変容について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課されたマトリクスについて、レポートにまとめておくこと。(2時間) 第6回：新聞Ⅰ（グループワーク） 事前学習：「新聞」について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課されたマトリクスについて、レポートにまとめておくこと。(2時間) 第7回：新聞Ⅱ（グループワーク・発表） 事前学習：前回に続き「新聞」について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課されたマトリクスについて、レポートにまとめておくこと。(2時間) 第8回：紙のメディアⅠ（グループワーク） 事前学習：紙のメディアについて考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：授業で課されたマトリクスについて、レポートにまとめておくこと。(2時間) 第9回：紙のメディアⅡ（グループワーク） 事前学習：前回に続き紙のメディアについて考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第10回：紙のメディアⅢ（発表） 事前学習：前回に続き紙のメディアについて考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第11回：聴覚メディア 事前学習：聴覚メディアと社会の変容について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第12回：視覚メディア 事前学習：視覚メディアと社会の変容について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間)

	第13回：ニューメディア 事前学習：ニューメディアと社会の変容について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第14回：地域メディア 事前学習：地域メディアによる情報発信について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第15回：まとめ 事前学習：授業全体の振り返りおよび確認問題に取り組むので、これまでの授業内容を確認しておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間)
(6)授業実施方法(面接授業・遠隔授業)	原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(7)成績評価方法	課題に対する活動内容・提出物・レポート（70%）、平常点（30%） ※平常点：授業への参加状況・受講態度等を総合して判断
(8)成績評価基準	・メディア理論に関して、その要諦と社会的意味の位置づけを説明することができるか。 ・メディアと社会の変容について分析することができるか。また、自身の意見をもち考えを述べることができるか。
(9)課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他（具体的に記述： ） 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他（具体的に記述： ） 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他（具体的に記述： ） 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他（具体的に記述： ） 5) その他（自由記述：リアクションペーパーに対するフィードバックについて） ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他（具体的に記述： ）
(10)実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)	元情報通信会社管理職（社員数：26万人、主な担当業務：人事、社長・取締役秘書、マーケティング、新規ビジネス開発、システムコンサルタント等） 情報通信会社において、システム コンサルタント経験もある教員が、メディア理論の要諦と社会的意味の位置づけ及びメディアと社会の変容について解説する。
(11)テキスト・参考図書	必用に応じて、授業中に提示します。
(12)その他（受講上の注意）	「授業の計画」は、進捗や学生の反応・理解度に応じて、変更する場合があります。
(13)オフィスアワー	UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。
【大学処理欄】昨年度からの変更箇所	(1)□ (2)□ (3)□ (4)□ (5)□ (6)□ (7)□ (8)□ (9)□ (10)- (11)□ (12)□ (13)-

科目名	ビジネス・コミュニケーション研究	担当教員	升田 法継
英語科目名	Business・Communication	単位	2単位
開講形態	講義	配当年次	3年前期
選択区分	選択	ナンバリング	CO-B-2347
科目区分	人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 ビジネスコース		
求める学習成果（教育目標）	企画力・マネジメント力の向上を通して、組織・地域・社会の課題の解決に向けて主体的に取り組む力を育成します。		

(1)身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）	■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 □情報収集・探索能力 ■社会・職業理解能力 ■役割把握・認識能力 □計画実行能力 □選択能力 □課題解決能力
(2)授業の内容	情報通信媒体を介したバーチャルコミュニケーションが著しく拡大している今日において、ますます対面のコミュニケーション能力の重要性が問われる時代となっている。授業では、実社会において自身の個性や資質をより活かせるようにするための実践的なコミュニケーション能力の向上を狙いとする。
(3)授業の到達目標	・コミュニケーション能力を高めるための視点や要件について説明することができる。 ・他者とのコミュニケーションが円滑に行える。
(4)アクティブ・ラーニング	□課題解決型学習(PBL) □討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) □実習、フィールドワーク □実験、実技 □その他(具体的に記述：)
(5)授業の計画及び授業外の学習方法	授業では、組織や職場における基本的なコミュニケーションパターンを学ぶとともに、コミュニケーション力を高めるためのアプローチ方法について考えていく。 第1回：組織とは 事前学習：「組織」について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第2回：組織内・部門間のコミュニケーションⅠ 事前学習：部門間のコミュニケーションについて考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第3回：組織内・部門間のコミュニケーションⅡ 事前学習：前回に続き部門間のコミュニケーションについて考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第4回：組織内・部門間のコミュニケーションⅢ 事前学習：前回に続き部門間のコミュニケーションについて考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第5回：組織と現場力 事前学習：組織と現場力について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第6回：上司と部下のコミュニケーションⅠ（グループワーク） 事前学習：上司と部下のコミュニケーションについて考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第7回：上司と部下のコミュニケーションⅠ（グループワーク・発表） 事前学習：前回に続き上司と部下のコミュニケーションの留意点について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第8回：会議のコミュニケーションⅠ 事前学習：会議の進め方における留意点について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第9回：会議のコミュニケーションⅡ（グループワーク） 事前学習：前回に続き会議の進め方における留意点について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第10回：文書のコミュニケーションⅠ（グループワーク） 事前学習：効果的な議事録・メールについて考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第11回：文書のコミュニケーションⅡ（グループワーク・発表） 事前学習：前回に続き効果的な議事録・メールについて考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間)

	第12回：就活のコミュニケーションⅠ（グループワーク） 事前学習：自己理解と自己表現について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第13回：就活のコミュニケーションⅡ 事前学習：前回に続き自己理解と自己表現について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第14回：就活のコミュニケーションⅢ 事前学習：「E S」作成及び「面接」の留意点について意見交換をするため、自分なりの意見をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第15回：まとめ 事前学習：授業全体の振り返りおよび確認問題を実施するので、これまでの授業内容を確認しておくこと。（2時間） 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間）
(6)授業実施方法(面接授業・遠隔授業)	原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(7)成績評価方法	課題に対する活動内容・提出物・レポート（70%）、平常点（30%） ※平常点：授業への参加状況・受講態度等を総合して判断するもの
(8)成績評価基準	・コミュニケーション能力を高めるための視点や要件について説明することができるか。 ・他者とのコミュニケーションが円滑に行えるか。
(9)課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他（具体的に記述：） 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他（具体的に記述：） 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他（具体的に記述：） 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他（具体的に記述：） 5) その他（自由記述：リアクションペーパーに対するフィードバックについて） ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他（具体的に記述：）
(10)実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)	元情報通信会社管理職（社員数：26万人、主な担当業務：人事、社長・取締役秘書、マーケティング、新規ビジネス開発、システムコンサルタント等） 情報通信会社において、人事や社長・取締役スタッフ経験もある教員が、組織内および組織対組織で展開されるコミュニケーションについて解説する。
(11)テキスト・参考図書	必用に応じて、授業中に提示します。
(12)その他（受講上の注意）	・「授業の計画」は、進捗や学生の反応・理解度に応じて、変更する場合があります。
(13)オフィスアワー	UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。
【大学処理欄】昨年度からの変更箇所	(1) ☐ (2) ☐ (3) ☐ (4) ☐ (5) ☐ (6) ☐ (7) ☐ (8) ☐ (9) ☐ (10)- (11) ☐ (12) ☐ (13)-

科目名	組織と情報（ビジネスコース）	担当教員	升田 法継
英語科目名	Information and Organization	単位	2単位
開講形態	講義	配当年次	3年後期
選択区分	選択	ナンバリング	CO-BS-2348
科目区分	人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 ビジネスコース		
求める学習成果（教育目標）	企画力・マネジメント力の向上を通して、組織・地域・社会の課題の解決に向けて主体的に取り組む力を育成します。		

(1)身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）	☐ 自他の理解能力 ☒ コミュニケーション能力 ☒ 情報収集・探索能力 ☒ 社会・職業理解能力 ☒ 役割把握・認識能力 ☐ 計画実行能力 ☐ 選択能力 ☒ 課題解決能力
(2)授業の内容	授業では、企業と（企業にとって人・モノ・金に次ぐ第4の経営資源といわれる）情報の関わりについて考察し、情報化社会における企業活動の概況や課題について理解を深めることを狙いとする。
(3)授業の到達目標	・ホームページや新聞から企業に関する情報を収集し、自身の考えを述べることができる。 ・情報社会における企業のしくみや課題について説明することができる。
(4)アクティブ・ラーニング	☐ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☐ その他(具体的に記述：)
(5)授業の計画及び授業外の学習方法	第1回：企業と経済活動 事前学習：企業と経済活動との関係性について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第2回：組織文化と企業理念Ⅰ 事前学習：組織文化と企業理念について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第3回：組織文化と企業理念Ⅱ 事前学習：前回に続き組織文化と企業理念について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第4回：組織文化と企業理念Ⅲ 事前学習：前回に続き組織文化と企業理念について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第5回：企業形態とガバナンス 事前学習：企業形態とガバナンスについて考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第6回：マーケティングⅠ 事前学習：マーケティングについて考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第7回：マーケティングⅡ（グループワーク） 事前学習：前回に続きマーケティングについて考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第8回：マーケティングⅢ（発表） 事前学習：前回続きマーケティングについて考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第9回：経営戦略（グループワーク） 事前学習：経営戦略について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第10回：事業戦略Ⅰ（グループワーク） 事前学習：事業戦略について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第11回：事業戦略Ⅱ（グループワーク） 事前学習：前回に続き事業戦略について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間) 第12回：ビジネスモデル（グループワーク） 事前学習：ビジネスモデルについて考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。(2時間) 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。(2時間)

	第13回：企業と採用・人事情報Ⅰ（ディスカッション） 事前学習：企業と採用・人事について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第14回：企業と採用・人事情報Ⅱ 事前学習：前回に続き企業と採用・人事について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。（2時間） 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間） 第15回：まとめ 事前学習：授業全体の振り返りおよび確認問題を実施するので、これまでの授業内容を確認しておくこと。（2時間） 事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間）
(6)授業実施方法(面接授業・遠隔授業)	原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(7)成績評価方法	課題に対する活動内容・提出物・レポート（70％）平常点（30％） （平常点は、授業への参加状況・受講態度、提出物の提出状況等を総合して判断します。）
(8)成績評価基準	・ホームページや新聞から企業に関する情報を収集し、自身の考えを述べることができるか。 ・情報社会における企業のしくみや課題について説明することができるか。
(9)課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他（具体的に記述：） 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他（具体的に記述：） 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他（具体的に記述：） 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他（具体的に記述：） 5) その他（自由記述：リアクションペーパーに対するフィードバックについて） ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他（具体的に記述：）
(10)実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)	元情報通信会社管理職（社員数：26万人、主な担当業務：人事、社長・取締役秘書、マーケティング、新規ビジネス開発、システムコンサルタント等） 情報通信会社において、人事、社長・取締役やマーケティング経験もある教員が、企業活動の概況、企業と情報の関わりや主な課題について解説する。
(11)テキスト・参考図書	必要に応じて、授業中に提示します。
(12)その他（受講上の注意）	「授業の計画」は、進捗や学生の反応・理解度に応じて、前後したり変更する場合があります。
(13)オフィスアワー	UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。
【大学処理欄】昨年度からの変更箇所	(1) ☐ (2) ☐ (3) ☐ (4) ☐ (5) ☐ (6) ☐ (7) ☐ (8) ☐ (9) ☐ (10)- (11) ☐ (12) ☐ (13)-

科目名	公共政策	担当教員	竹内 直人
英語科目名	Public Policy	単位	2単位
開講形態	講義	配当年次	2年前期
選択区分	選択	ナンバリング	CO-A-2219
科目区分	人間学部コミュニケーション学科専門科目 基幹科目 コミュニケーション学基礎A群		
求める学習成果（教育目標）	コミュニケーションに関する知識を修得し、異文化を理解し、国際社会や地域社会を広い視野からとらえる力を身につけます。		

(1)身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）	☐ 自他の理解能力 ☒ コミュニケーション能力 ☒ 情報収集・探索能力 ☒ 社会・職業理解能力 ☐ 役割把握・認識能力 ☒ 計画実行能力 ☐ 選択能力 ☒ 課題解決能力
(2)授業の内容	今年度はビジネスと政策の関係に着目して、新たな視点から公共政策を学びます。ビジネス公共政策も社会的課題を解決する点では共通点があります。そこでビジネスで地域課題の解決に取り組む企業経営者の話を聞くこと（講演）を出発点とし、公共政策の基礎理論を分かりやすく解説します。講演を基にグループ単位で、民間活力を活用した地域の課題解決策をつくることにチャレンジします。解決策は企業経営者に評価をいただき、優秀グループには賞が授与されます。
(3)授業の到達目標	人口減少と厳しい自治体財政のなか、地域課題の解決は自治体だけで行うことは困難であり、また効果的でもありません。この講義では民間活力と公共政策の協働を目指し、以下の目標を設定します。 1 ビジネスと公共政策の共通点を理解する（地域の課題を解決する）。 2 ビジネスと公共政策の相違点を理解する（政府の存在理由とは何か）。 3 協力して解決策をつくる。 4 解決策をプレゼンテーションする。
(4)アクティブ・ラーニング	☒ 課題解決型学習(PBL) ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☒ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☒ その他(具体的に記述：政策提案レポート（企画書）作成)
(5)授業の計画及び授業外の学習方法	第1回：オリエンテーション 地域の課題を解決する2つの方法（ビジネスと政策） 事前学習：配布資料を読む（2時間） 事後学習：復習（2時間） 第2回：地域の課題を学ぶ（モータリゼーションと駐車場の課題〔1〕） 参考資料の解説 事前学習：配布資料を読む（2時間） 事後学習：復習（2時間） 第3回：地域の課題を学ぶ（モータリゼーションと駐車場の課題〔2〕） 越前市の課題 事前学習：配布資料を読む（2時間） 事後学習：復習（2時間） 第4回：企業経営者講義（第5回になる可能性あり） ビジネスによる課題解決 事前学習：配布資料を読む（2時間） 事後学習：復習（2時間） 第5回：解決策を考える（企画書作成） 事前学習：企画案を考える（2時間） 事後学習：プレゼンテーションの準備（2時間） 第6回：ミニ・プレゼンテーション（1） 一人ひとりが企画案を発表 事前学習：プレゼンテーションの準備（2時間） 事後学習：プレゼンテーション修正（2時間） 第7回：ミニ・プレゼンテーション（2） 一人ひとりが企画案を発表 事前学習：プレゼンテーションの準備（2時間）

	事後学習：プレゼンテーション修正（２時間） 第８回：テーマに応じてグループ分け 個別政策をつくる（１） 事前学習：情報収集（２時間） 事後学習：プロジェクト作成（２時間） 第９回：（講義）プレゼンテーションの技法 事前学習：配布資料を読む（２時間） 事後学習：復習（２時間） 第10回：課題研究（グループ学習） 個別政策をつくる（２） 事前学習：課題研究（２時間） 事後学習：復習（２時間） 第11回：課題研究（グループ学習） 個別政策をつくる（３） 事前学習：課題研究（２時間） 事後学習：復習（２時間） 第12回：：グループ発表 政策をプレゼンテーションする（１） 事前学習：プレゼンテーション準備（２時間） 事後学習：プレゼンテーション反省（２時間） 第13回：グループ発表 政策をプレゼンテーションする（２） 事前学習：プレゼンテーション準備（２時間） 事後学習：プレゼンテーション反省（２時間） 第14回：政策の最終チェック 事前学習：政策案を考える（２時間） 事後学習：政策案を考える（２時間） 第15回：政策提案（プレゼンテーション） 経営者に政策を提案する 事前学習：政策案を考える（２時間） 事後学習：政策案を考える（２時間）
(6)授業実施方法(面接授業・遠隔授業)	原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(7)成績評価方法	プレゼンテーション（５０％）、レポート（２５％）、出席・授業内活動(25%)
(8)成績評価基準	・課題の分析及び政策の必要性と狙いについて800字程度の企画書（概要）にまとめること（２５％）。 ・地域の課題について具体的なテーマのもとにグループで議論し、課題と解決策（政策）をPPT15枚程度にまとめること（２５％）。 ・解決策について、20分程度のプレゼンテーションを行い、聞き手に内容を分かりやすく伝えること（５０％）。 ・プレゼンテーションの優秀チームには加点します。
(9)課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☒ 仁大eラーニング ☐ メール ☒ その他（具体的に記述：次回の授業においてポイントの説明を行う。） 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☒ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他（具体的に記述： ） 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他（具体的に記述：添削と評価を行い返却する。） 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☐ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☒ その他（具体的に記述：プレゼンテーションに対する講評と振り返りを行う。） 5) その他（自由記述： ）に対するフィードバックについて

科目名	企業と制度	担当教員	南保 勝
英語科目名	Corporations and Systems	単位	2単位
開講形態	講義	配当年次	3年前期
選択区分	選択	ナンバリング	CO-A-2321
科目区分	人間学部コミュニケーション学科専門科目 基幹科目 コミュニケーション学専門		
求める学習成果（教育目標）	コミュニケーション・ツールの活用スキルを修得し、情報化社会において文化の相互交流に資する豊かな表現力を育成します。		

(1)身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）	☐ 自他の理解能力 ☐ コミュニケーション能力 ☒ 情報収集・探索能力 ☒ 社会・職業理解能力 ☐ 役割把握・認識能力 ☒ 計画実行能力 ☐ 選択能力 ☒ 課題解決能力
(2)授業の内容	企業活動を維持していくには、事業運営、雇用、販売など様々な経済活動面で把握すべき制度がある。本講義では、こうした企業活動を維持する各種制度の中から「商品」に係わる制度運営上の課題に着目し、商品の仕入、販売等に係わる課題を理解するために、生活者の立場から見て商品の価値や価格などを評価できる基礎知識の修得を目指す。
(3)授業の到達目標	この講義の学習成果は、「企業における組織的、社会的な活動での業務遂行に際し、必要な分析力や計画性に関する知識・技術の修得」である。具体的には、消費者行動論やマーケティング論をベースとして、生活者の立場で商品評価を可能にするための基礎力養成をめざす。
(4)アクティブ・ラーニング	☐ 課題解決型学習(PBL) この講義の学習成果（身につけるべき力）は、「企業における組織的、社会的な活動での業務遂行に際し、必要な分析力や計画性に関する知識・技術の修得」である。具体的には、消費者行動論やマーケティング論をベースとして、生活者の立場で商品評価を可能にするための基礎力養成をめざす。 ☒ 討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ☐ 発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 実験、実技 ☒ その他(具体的に記述：演習)
(5)授業の計画及び授業外の学習方法	第1 回：ガイダンス、構造変化と消費行動 事前学習：講義前にシラバスを読み、講義概要を把握しておくこと。(2 時間) 事後学習：構造変化と消費行動（イントロ）について学習した内容をまとめておくこと。(2 時間) 第2回：構造変化と消費行動 事前学習：前回学習した構造変化と消費行動について、不明確な点を整理しておくこと。(2 時間) 事後学習：講義で学習した内容を復習・確認しておくこと。(2 時間) 第3 回：商品の概念 事前学習：商品の概念について、教科書で確認しておく。(2 時間) 事後学習：講義で学習した内容を復習・確認しておくこと。(2 時間) 第4回：商品の品質と価格 事前学習：商品の品質と妥当性について、教科書で確認しておくこと。(2 時間) 事後学習：講義で学習した内容を復習・確認しておくこと。(2 時間) 第5回：商品デザインとパッケージ 事前学習：商品デザインとパッケージの役割について、教科書で確認しておくこと。(2 時間) 事後学習：講義で学習した内容を復習・確認しておくこと。(2 時間) 第6回：経済のサービス化と商品（その1） 事前学習：経済のサービス化における消費者ニーズの変化をわかる範囲で確認しておくこと。(2 時間) 事後学習：講義で学習した内容を復習・確認しておくこと。(2 時間) 第7回：経済のサービス化と商品（その2） 事前学習：経済のサービス化の中での商品とは何か、事前に確認しておくこと。(2 時間) 事後学習：講義で学習した内容を復習・確認しておくこと。(2 時間) 第8回：消費活動を取り巻く諸問題 事前学習：消費生活における課題とは何か、整理しておくこと。(2 時間) 事後学習：講義で学習した内容を復習・確認しておくこと。(2 時間) 第9回：ブランドの価値と役割（その1） 事前学習：ブランドの価値と役割について、整理しておくこと。(2 時間) 事後学習：講義で学習した内容を復習・確認しておくこと。(2 時間) 第10回：ブランドの価値と役割（その2） 事前学習：前回の講義に続いて、ブランドの価値・役割を整理しておくこと。(2 時間) 事後学習：講義で学習した内容を復習・確認しておくこと。(2 時間) 第11回：少子高齢化社会における商品（その1） 事前学習：少子高齢化社会における商品とは何か、教科書を用いて整理しておくこと。(2 時間) 事後学習：講義で学習した内容を復習・確認しておくこと。(2 時間) 第12回：少子高齢化社会における商品（その2） 事前学習：少子高齢化社会における商品に関し、前回の講義で足らなかった点を整理しておくこと。(2 時間) 事後学習：講義で学習した内容を復習・確認しておくこと。(2 時間) 第13回：商品と社会（その1） 事前学習：社会的企業とは何か、教科書を用い予習しておくこと。(2 時間) 事後学習：講義で学習した内容を復習・確認しておくこと。(2 時間) 第14回：商品と社会（その2） 事前学習：社会的企業の役割とは何か、教科書うを用いて整理しておくこと。(2 時間) 事後学習：講義で学習した内容を復習・確認しておくこと。(2 時間) 第15回：まとめ

	事前学習：これまでの講義で取り扱った内容について、疑問点を整理しておくこと。(2 時間) 事後学習：講義全体について、整理・把握に努めること。(2 時間)
(6)授業実施方法(面接授業・遠隔授業)	原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(7)成績評価方法	毎回の講義で実施する演習問題の成績(30%)と学習態度(講義への取り組み姿勢や受講態度等)(20%)、定期試験(50%)を総合して判断する。
(8)成績評価基準	・講義に積極的に取り組んでいるかどうか。 ・講義で取り扱った内容を理解し、修得できているかどうか。
(9)課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ■ 授業時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述:) 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ■ 授業時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述:) 3) 小レポートに対するフィードバックについて ■ 授業時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述:) 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて □ 定期試験時 □ 仁大eラーニング □ メール ■ その他(具体的に記述: 定期試験前のまとめで練習問題を実践し、全体のフィードバックとする) 5) その他(自由記述:)に対するフィードバックについて □ 授業時 □ 仁大eラーニング □ メール □ その他(具体的に記述:)
(10)実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)	・経歴 (地方銀行及びそのシンクタンクに勤務) ・実務経験と授業内容との関連性 (地方銀行及びそのシンクタンクで学んだ実践的な経済学、経営学を活かして、日本の企業や地域経済の現状、歴史的発展過程、将来における企業のあるべき姿などについて「商品学」を主なテーマにしながら解説する。)
(11)テキスト・参考図書	見目洋子、榊原理著『現代商品論(第2版)』白桃書房2011
(12)その他(受講上の注意)	
(13)オフィスアワー	UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。
【大学処理欄】昨年度からの変更箇所	(1)□ (2)□ (3)□ (4)□ (5)□ (6)□ (7)□ (8)□ (9)□ (10)－ (11)□ (12)□ (13)－

科目名	ライティング技法	担当教員	野尻 昌明
英語科目名	Writing Strategies	単位	2単位
開講形態	演習	配当年次	2年後期
選択区分	選択	ナンバリング	CO-B-2251
科目区分	人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 ビジネスコース		
求める学習成果（教育目標）	企画力・マネジメント力の向上を通して、組織・地域・社会の課題の解決に向けて主体的に取り組む力を育成します。		

(1)身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）	■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 ■社会・職業理解能力 □役割把握・認識能力 □計画実行能力 □選択能力 ■課題解決能力
(2)授業の内容	メディアにおけるコピーライティングの違いを検証。各メディア特性を確認しながらメディア（ライティング）を制作し効果を学ぶ。 コピーライティングを通じて、最終的に就職・仕事に直結する企画提案書（プレゼンテーション）を制作できる執筆能力を身につける。
(3)授業の到達目標	プロポーザル方式に勝ち残る企画提案書のライティング能力を身につける。 地域社会、企業、組織に貢献する文章構成能力を身につける。
(4)アクティブ・ラーニング	■課題解決型学習(PBL) ■討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) ■発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) □実習、フィールドワーク □実験、実技 □その他(具体的に記述：)
(5)授業の計画及び授業外の学習方法	第1回：コミュニケーションとコピーライティング 事前学習：コミュニケーションツールとしてのコピー（広告用の言葉・フレーズ・惹句）について理解しておくこと。(2時間) 事後学習：授業中に示された各種コピーについてのメモをレポート化しておくこと。(2時間) 第2回：コピーライティング概論（新聞・TV・ポスター・web・各種） 事前学習：授業前に各媒体から興味のあるクリエイティブ作品を選択、記録しておく。(2時間) 事後学習：授業後、媒体特性を理解し選択したクリエイティブ作品についての分析を行う。(2時間) 第3回：コピーライティングの制作実践 事前学習：前回与えられた課題について、複数のキャッチコピーと説明を用意しておく。(2時間) 事後学習：授業中制作したコピーについて、再度ブラッシュアップする。(2時間) 第4回：作品の評価・ミーティング 事前学習：選択したコピーについての十分な説明を準備しておく。(2時間) 事後学習：評価されたコピーについてさらにブラッシュアップを行う。(2時間) 第5回：コンセプトの必要性（クライアント設定～制作～効果） 事前学習：予告されたクライアントについてのコンセプト（企業・地域・広報等）を準備しておく。(2時間) 事後学習：学習したブラッシュアップ法によって、コンセプトを再度確認する。(2時間) 第6回：設定クライアント（製品）①におけるミーティング（グループワーク） 事前学習：設定クライアントについての予備知識を用意しておく。(2時間) 事後学習：設定クライアントに類似した表現方法を書籍、資料などで調査する。(2時間) 第7回：制作実践（課題1/コンセプトライティング） 事前学習：設定クライアントがコピーが必要とする理由・目的を分析しておく。(2時間) 事後学習：設定したコンセプトが正しいかどうかを、クライアント確認とともに精査する。(2時間) 第8回：制作実践（課題1/キャッチコピーライティング） 事前学習：前回与えられた課題について、複数のキャッチコピーと説明を用意しておく。(2時間) 事後学習：授業中制作したコピーについて、再度ブラッシュアップする。(2時間) 第9回：制作実践（課題1/ボディコピーライティング） 事前学習：前回与えられた課題について、複数のボディコピーと説明を用意しておく。(2時間) 事後学習：授業中制作したコピーについて、再度ブラッシュアップする。(2時間) 第10回：制作実践（課題1/ライティング発表） 事前学習：選択したコピーについての十分な説明を準備しておく。(2時間) 事後学習：評価されたコピーについてさらにブラッシュアップを行う。(2時間) 第11回：設定クライアント（製品）②におけるミーティング（グループワーク） 事前学習：設定クライアントについての予備知識を用意しておく。(2時間) 事後学習：設定クライアントに類似した表現方法を書籍、資料などで調査する。(2時間) 第12回：制作実践（課題2/コンセプトライティング）

	事前学習：設定クライアントがコピーを必要とする理由・目的を分析しておく。(2時間) 事後学習：設定クライアントに類似した表現方法を書籍、資料などで調査する。(2時間) 第13回：制作実践（課題2/キャッチコピー&ボディライティング） 事前学習：与えられた課題について、複数のキャッチ&ボディコピーと説明を用意しておく。(2時間) 事後学習：授業中制作したコピーについて、再度ブラッシュアップする。(2時間) 第14回：制作実践（課題1～2についての総合企画書） 事前学習：課題1～2についてのプロセスを考慮しながら、企画骨子をまとめておく。(2時間) 事後学習：指定された企画シートに沿って内容をまとめる。(2時間) 第15回：課題1～2における企画プレゼンテーション制作準備（プレゼンテーション・発表） 事前学習：総括した企画を1枚のシートにまとめる。(2時間) 事後学習：担当教員とのディスカッション後、プレゼンテーションツールを作成しておく。(2時間) 第16回：最終試験 （※受講者数・状況により変更の場合あり）
(6)授業実施方法(面接授業・遠隔授業)	原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。
(7)成績評価方法	課題に対する活動評価・提出物・定期試験（60％）平常点(40％) 平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断する。
(8)成績評価基準	メディアを利用しての実践的制作プロセス（ライティング・コンセプトメイキング・企画）のスケジュール把握とデジタルツールへの効果的・効率的な情報運用。 コミュニケーションメディアに関する企画力・制作能力を高めることができているか。 コミュニケーションの目的とする各種ベクトルを把握しながら、正しい表現能力を会得することができているか。
(9)課題(試験やレポート等)に対するフィードバック	1) 授業時の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他（具体的に記述： ） 2) 事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他（具体的に記述： ） 3) 小レポートに対するフィードバックについて ☒ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他（具体的に記述： ） 4) 定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて ☒ 定期試験時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他（具体的に記述： ） 5) その他（自由記述： ）に対するフィードバックについて ☐ 授業時 ☐ 仁大eラーニング ☐ メール ☐ その他（具体的に記述： ）
(10)実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)	・経歴 (広告ディレクター) ・実務経験と授業内容との関連性 (広告ディレクターとしての業務経験を有する教員が、各メディアにおけるコピーライティングの技法について演習を行う。)
(11)テキスト・参考図書	使用しない
(12)その他（受講上の注意）	他者の学ぶ時間を奪ったり、学ぶ姿勢を阻害するような行動に対しては厳しく対処します。各自、講義を通じて問題意識を醸成してください。
(13)オフィスアワー	UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。
【大学処理欄】昨年度からの変更箇所	(1) ☐ (2) ☐ (3) ☐ (4) ☐ (5) ☐ (6) ☐ (7) ☐ (8) ☐ (9) ☐ (10)－ (11) ☐ (12) ☐ (13)－